

第3回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会
次第

日時 平成27年10月26日(月)午後6時から
場所 小金井市役所西庁舎2階 第5会議室

【次第】

- 1 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について
 - (1) 人口推計及びアンケート調査から得られる課題
【資料9、9-1、9-2、9-3】【資料10】
 - (2) 総合戦略における基本目標と取組の視点
【資料9】【資料11】

- 2 今後の検討の流れ・スケジュールについて
【資料12】

- 3 その他(意見交換等)

【配布資料】

別紙配布資料一覧のとおり

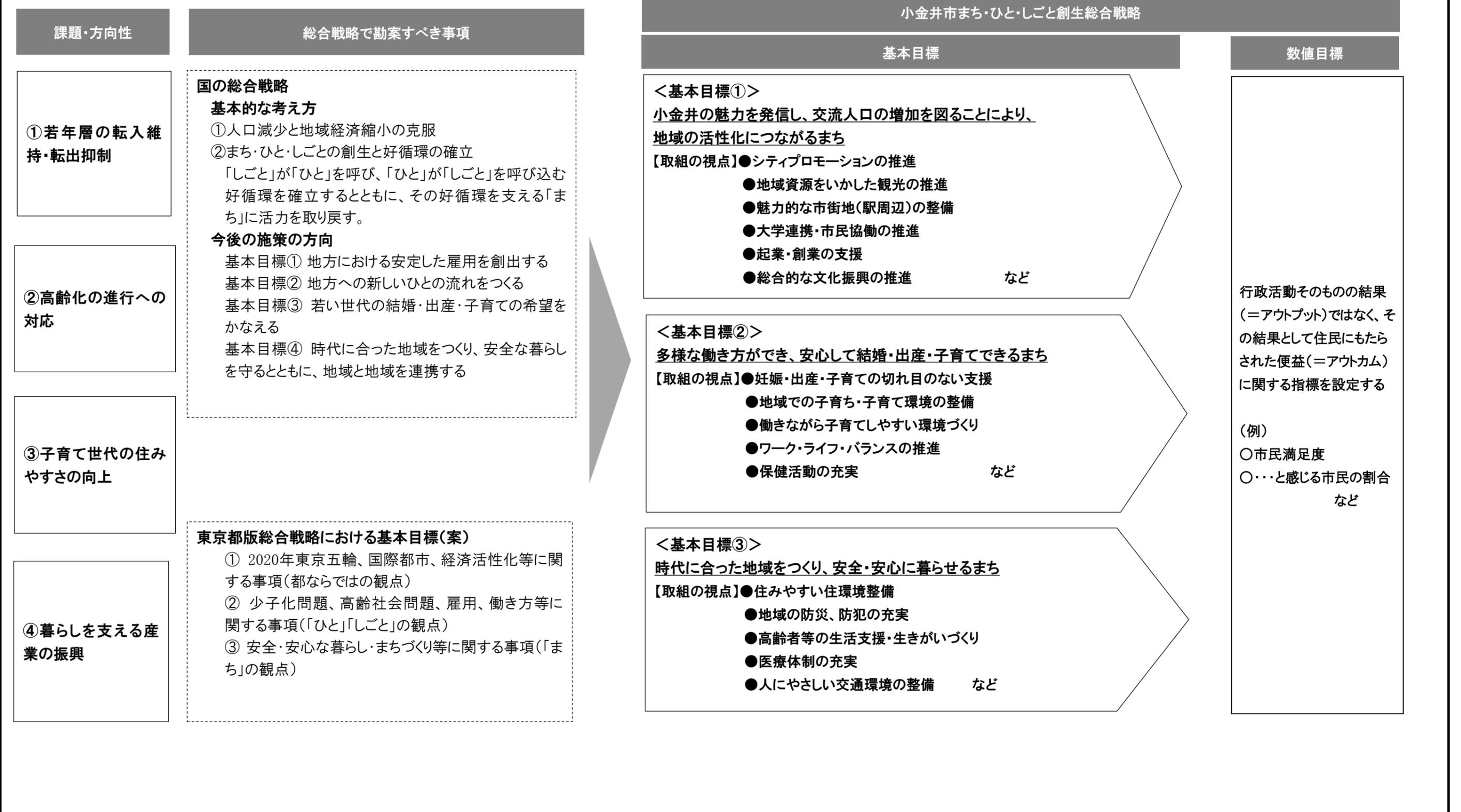
小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会

配 付 資 料 一 覧

	No.	資 料 名	備 考	
第3回 (10月26日)	9	小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について		
	10	進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査（中間報告）		
	11	第1回・第2回委員会でいただいたご意見	【当日配布】	
	12	総合戦略（素案）に係る施策等の検討の流れについて	【当日配布】	
	参考資料		第4次基本構想・後期基本計画（案）（パブリック・コメント資料）	

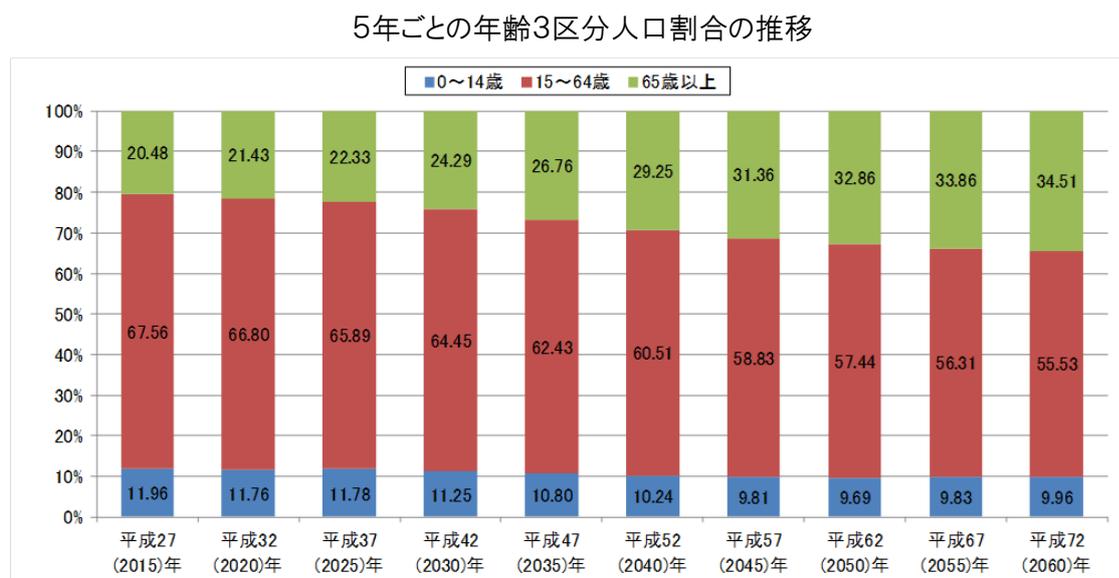
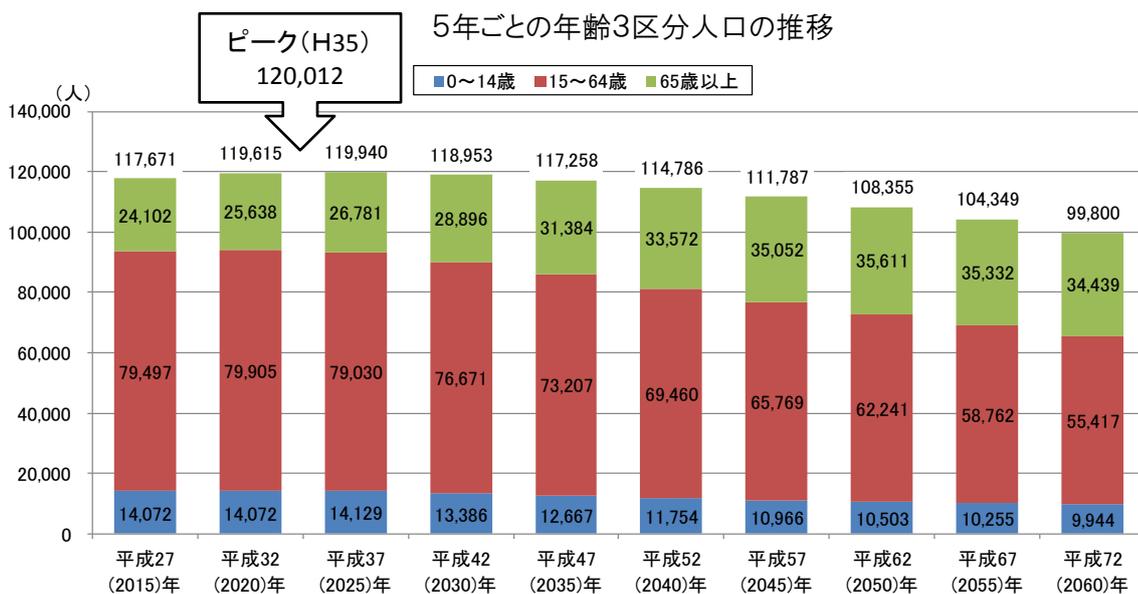
小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について

総合戦略における基本目標



人口推計(現状の出生率・移動率が推移する場合)の結果

- 平成35(2023)年をピークに人口減少がはじまります。
- 平成72(2060)年には人口が10万人を切り、高齢化率は約34%となります。
- 生産年齢人口(15~64歳)が現在とくらべ、約2.5万人減少します
- 年少人口の減少は、16~49歳の女性の人口の減少、子育て世代の転出増による影響
- 武蔵小金井地区、東小金井地区、野川地区では、野川地区の減少が他地区より早く大きい。



- 人口の推移に対して、何の対策も講じなければ、推計のように減少していくと考えられる。
- 人口推移に大きく影響を与える条件のうち、出生率、移動率が向上すれば、人口減少の時期を遅らせたり、減少幅を抑制することができるとともに、人口構成比の維持も図ることが可能となる。

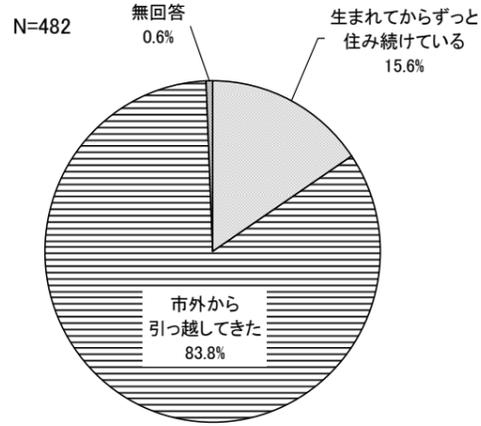
進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査 結果概要

アンケート概要

- 対象者 小金井市に住む16～39歳の方
- 回答者 482名(男性154名、女性325名/回収率24.1%)

住民の居住年数と出身地

- 生まれてから小金井市に住み続けている人は15.6%で、ほとんどの人が市外から引っ越してきた人です。
- 居住年数が5年未満の人が51.8%を占めます。
- 出身地は、東京都以外の人54.8%を占めます。

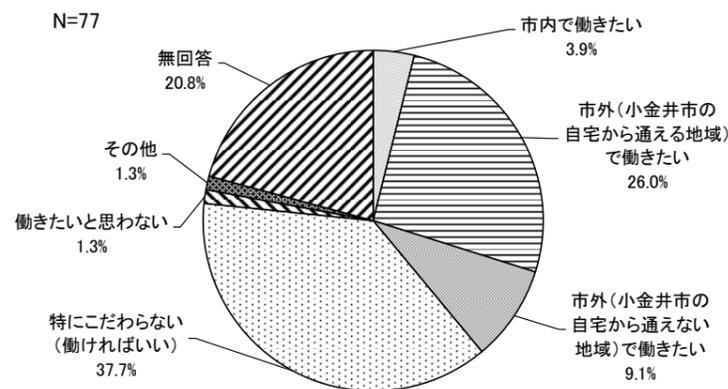


転入した理由

- 理由は「結婚のため」「住宅の都合(購入・借換など)」が多いです。
- 小金井市を選んだ理由は「通勤・通学に都合がよかったから」「住宅購入費・賃料が手ごろだったから」「希望した広さの住宅があったから」といった、交通アクセスや住宅事情に関するものが多いです。
- 一方、「みどり・水辺などの事前環境がよいから」「街並みや街の雰囲気、静かな環境で生活したかったから」といった、住環境を理由とする人もいます。

学生の進学・就職に対する意識

- 大学進学時には「自宅から大学に通いたい」が65.4%であるのに対し、「自宅から離れて大学に通いたい」という回答はありません。
- 特にこだわらない(働ければいい)と思う人は37.7%です。
- 就職時に、自宅に住み続けたいと思う人は29.9%です。

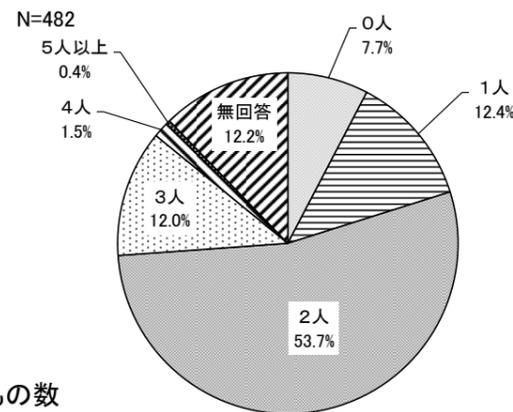


子どもの数

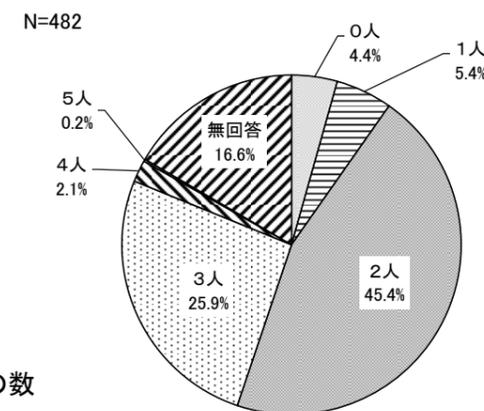
- 子どもがいる人は41.1%です。そのうち、子どもが1人は52.5%、2人が38.4%です。

理想とする子どもの数

- 最終的に持つつもりの子どもの数(予定子ども数)は、2人が53.7%で最も多く、2人以上の子どもの数(予定子ども数)は67.6%います。
- 全体の26.6%の人が理想よりも少ないと回答しています。その理由は、男女ともに資金面が最も多いですが、男性では住宅が理由になっているのに対して、女性では仕事や体力に関する理由が選ばれています。
- 理想とする子どもの数(理想子ども数)は、2人が45.4%で最も多く、次いで3人が25.9%です。2人以上の子どもの数(理想子ども数)は73.6%となり、予定子ども数の場合よりも、6.0%増えます。
- 予定子ども数の平均が1.64人であるのに対して、理想子ども数は1.83人となっています。
- 子どもを産み育てやすくなるための条件では、子どもがいる人では保育園・児童館などの子育て環境が最も求められており、一方で子どもがいない人では子育て費用の負担軽減が求められています。



予定している子どもの数

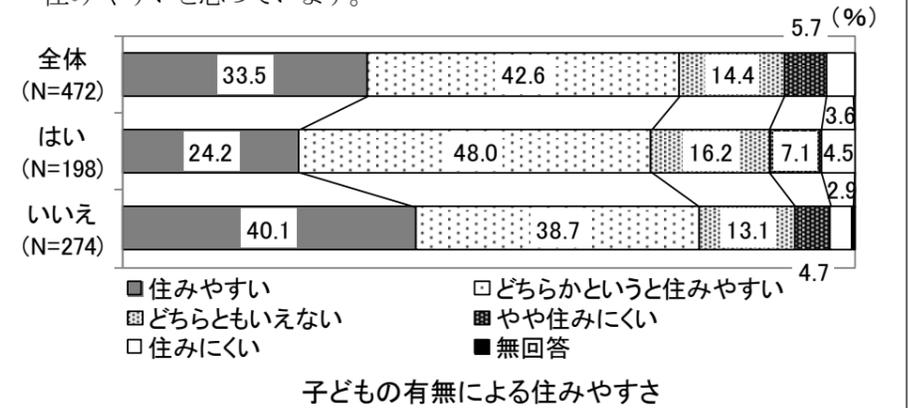


出産と就業継続について

- 女性のうち、出産にともない仕事を辞めたことのある人は49.7%、辞めたことのない人は49.0%です。
- 家庭と仕事の両立が難しいという理由が多い(28.2%)ですが、積極的に仕事を辞めた人も少なくありません(21.1%)。

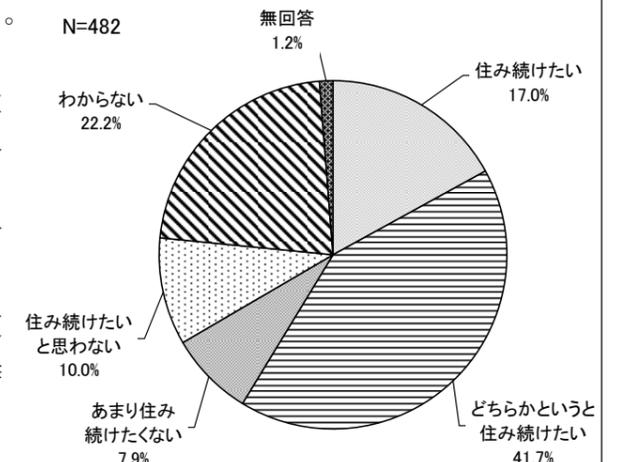
住みやすさについて

- 「住みやすい」「どちらかという住みやすい」と思う人は76.1%います。「住みにくい」「やや住みにくい」の合計は9.5%と少ないです。
- 年代でみると、男女ともに20歳代よりも30歳代の方が「住みやすい」と思う人は少ないです。
- 子どもの有無でみると、子どもがいない人の40.1%が住みやすいと思っているのに対して、子どもがいる人では24.2%となります。
- 地区別でみると、武蔵小金井地区がやや高いですが、総じて3割の人が住みやすいと思っています。



定住意向について

- 58.7%の人が定住意向を持っています(「住み続けたい」「どちらかという住み続けたい」の合計)。
- 性別・年代でみると、10歳代の男性で定住意向がやや低い以外は、総じて高いです。
- 住み続けたい街としては、安全・安心のほか、日常生活や街の利便性、住環境のよさが挙げられています。



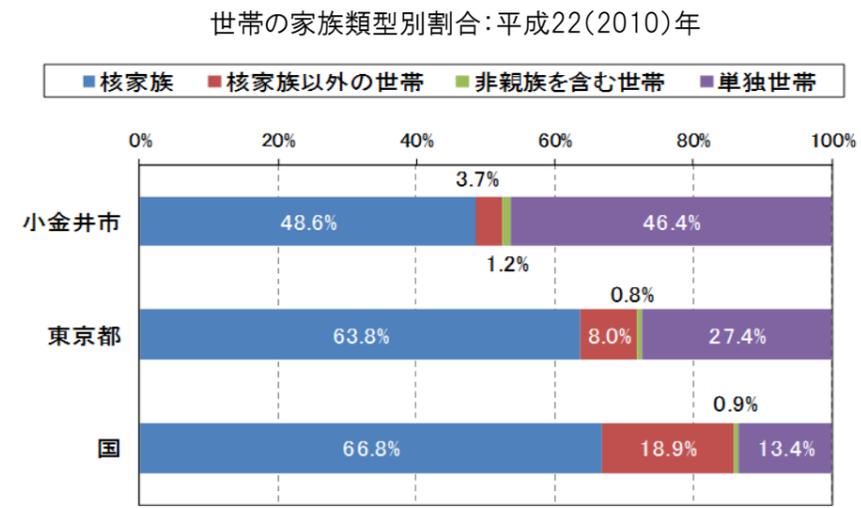
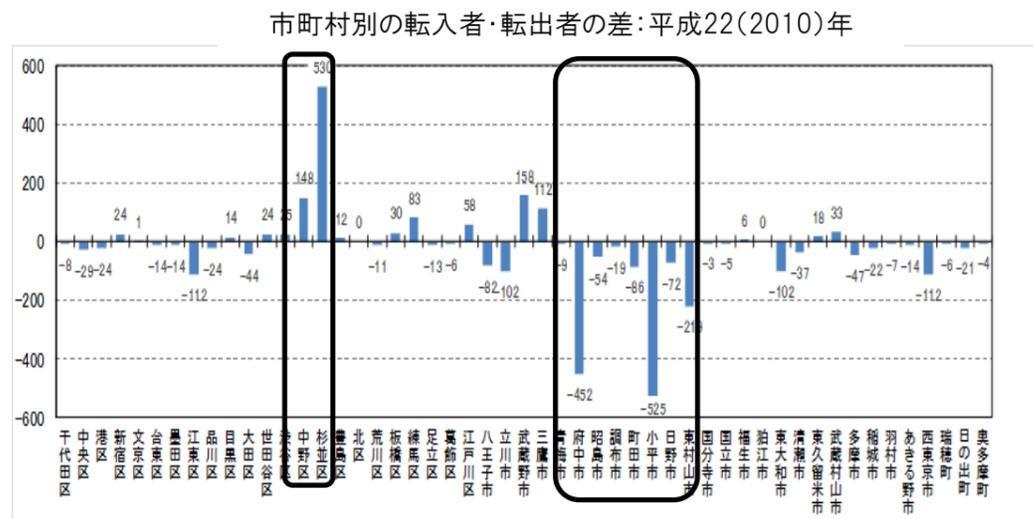
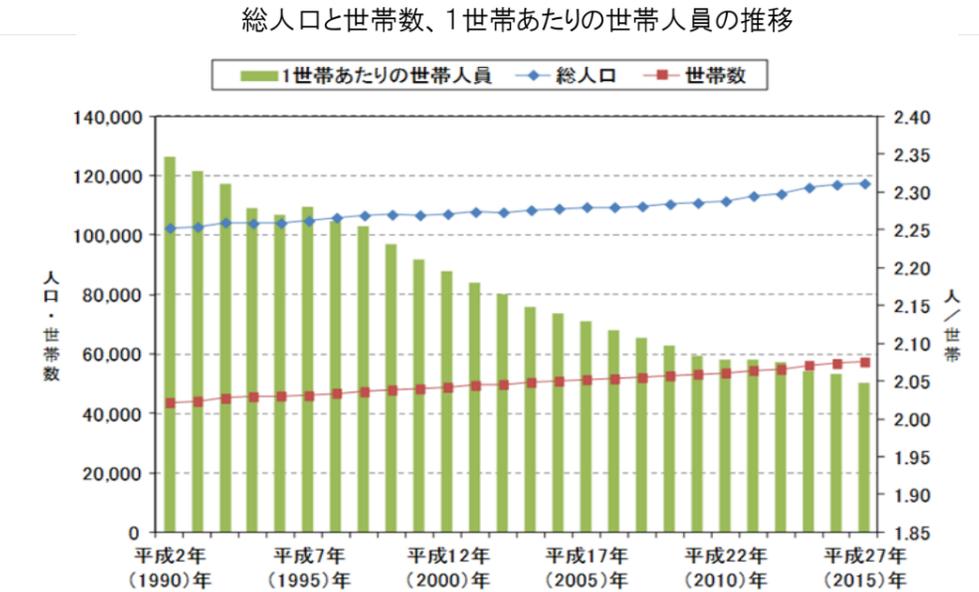
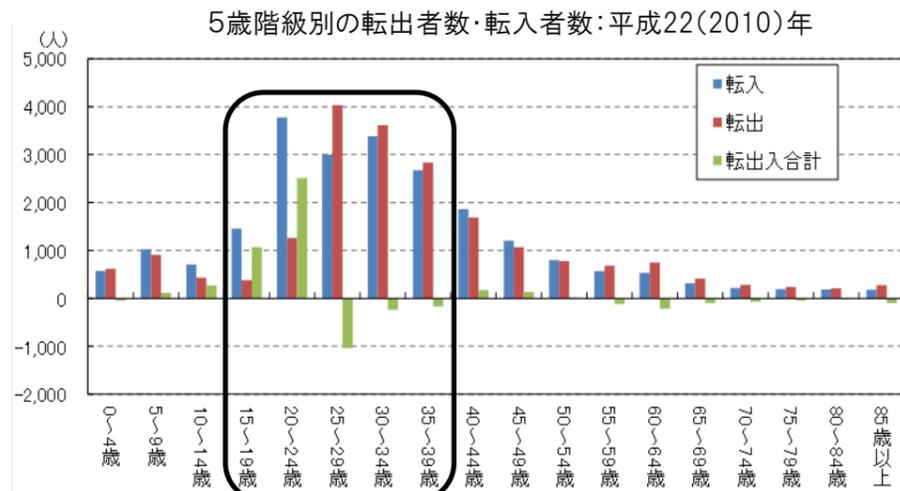
人口推計・アンケート調査から得られる課題

①若年層の転入維持・転出抑制

- 15～24歳においては転入が大きく超過している。市内に3大学あり、近隣地域にも大学があるため、学生の転入が多いと考えられる。転入超過に支えられた社会増の影響が大きい。
- しかし、国内の若い世代の絶対数は減少していることから、長期的には15～24歳の転入数は減少していくと考えられる。
- 一方、25～39歳においては転出が超過しており、今後も単身者の都心への転出、子育て世代の住宅事情のよい自治体への転出が続くと見込まれる(アンケート調査)
- 10歳代の男性に市外への転出意向が見られる(アンケート調査)
- 進学・就職を機に転入してきた若い世代が、ライフステージを経たあとにおいても継続して住み続けたいと思える環境が必要
- 市内での就業機会(起業・創業が主)の提供や子育て支援などによる転出抑制が必要

②高齢化の進行への対応

- 高齢化に伴う社会保障費の増加など、財政面での影響がある一方、高齢者が生きがいをもって暮らすことのできる工夫が必要
- 世帯人数の減少が続いており、高齢化に伴いひとり暮らし高齢者が増加することにより、地域での見守り支援、住宅の管理等の問題が生じる可能性がある。
- 高齢者を支える生産年齢人口の扶養負担が大きくなることを見込まれる。
- 生産年齢人口の減少による働き手の不足を補う役割が求められる。
- 高齢化に伴い、昼間人口の増加が見込まれるため、地域の活力を担う存在として重要となる。

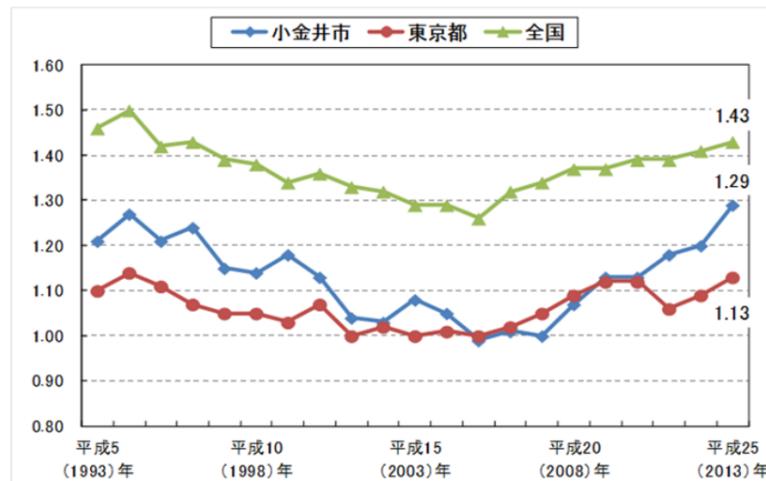


人口推計・アンケート調査から得られる課題

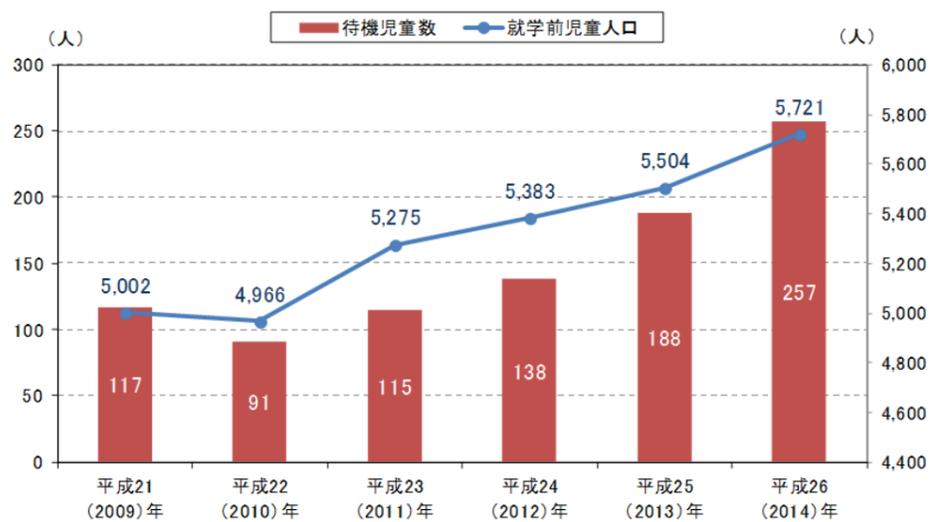
③子育て世代の住みやすさの向上

- 出生率は上昇を継続させていくためには、子育て・子育て環境の充実が必要である。
- 子育て世代において転出超過となっている。
- 子どもがいることによって住みやすさの評価が下がっている傾向がある。(アンケート調査)
- 複数の子どもがいる人は多いですが、理想子ども数よりも予定子ども数が少ない人が4分の1いる。(アンケート調査)
- 子どもを産み育てやすい環境にすることにより、出生率の向上・転出抑制にもつながるとともに、子育てUターンをしたいと思える人を増やすことができる。
- 働きながら子育てをしやすい環境整備や、子育ての費用負担の軽減が求められている。(アンケート調査)

合計特殊出生率の推移



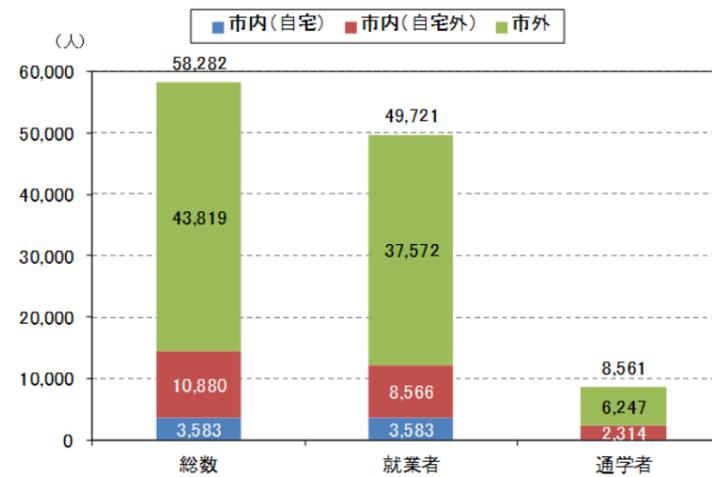
待機児童数の推移



④暮らしを支える産業の振興

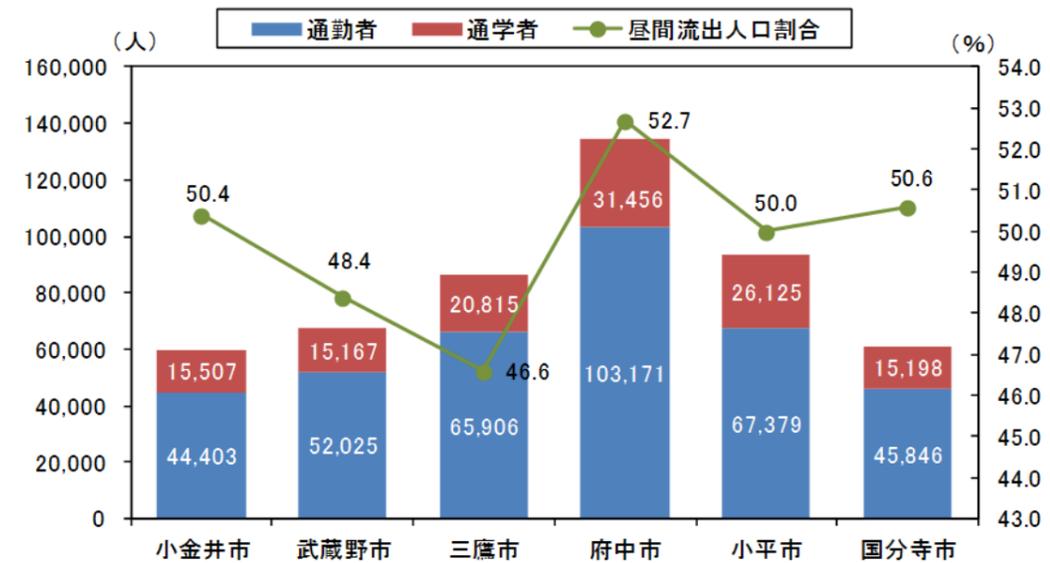
- 市外への通勤・通学者が全就業者の約7割となっている。また、昼間流出人口割合も約5割となっている。
- 日常的な買い物や食事など、市民生活の利便性を確保するという視点からの産業振興が必要
- 市内で働くことは、職住近接によるワークライフバランスの向上や子どもを産み育てやすい環境づくりにもつながることから、起業・創業支援をさらに進めるなど、市内で働く人を増やすことが、若年層の転出抑制や地域の活性化にもつながる。
- 工業や商業の規模が周辺自治体と比較して小さいが、それが住みやすさにつながっていることを踏まえていく必要がある。

就業地・通学地(市内・市外)による就業者数・通学者数:平成22(2010)年



市内就業者は全就業者の22.8%であり、市外に勤務する人が7割を占めています。

近隣自治体の昼間流出人口の比較:平成22(2010)年



**小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略
進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査**

中間報告書

平成27年10月

目次

1. アンケート概要.....	1
2. 基本属性.....	2
3. 転入した理由や選択理由について(転入者向け).....	8
4. 高校・大学等の卒業後の進路や就職観について(学生向け).....	10
5. 出産・子育てに関する意向について.....	14
6. 小金井市の住みやすさや定住意向について.....	21

1. アンケート概要

(1) 目的

小金井市人口ビジョンならびに小金井市まちひとしごと創生総合戦略の策定にあたり、人口変動に影響を与える、進学・就職・出産・子育てに関する実態や考え方を伺い、今後の取組みを検討する際の基礎資料を得ることを目的としています。

(2) 対象者:

小金井市に住む16歳から39歳の方

(3) 調査期間

平成27(2015)年7月29日(水)～8月17日(月)

(4) 対象者数

2,000名

(5) 集計数

482名

(6) 回収率

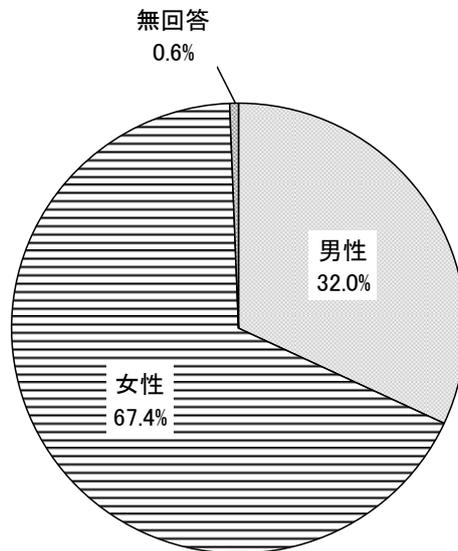
24.1%

2. 基本属性

問1 性別(○は1つだけ)

「男性」は32.0%、「女性」は67.4%です。

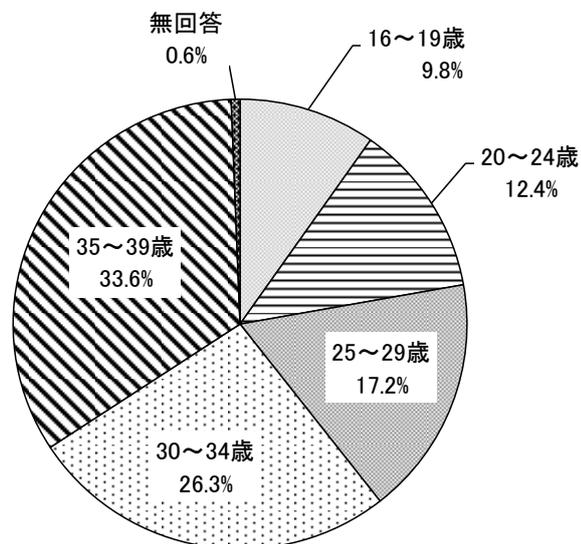
N=482



問2 年齢(○は1つだけ)

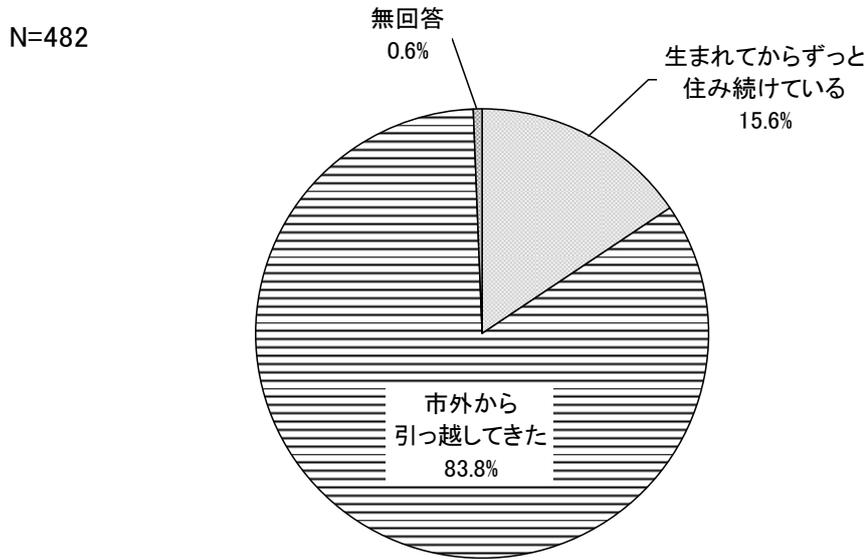
「35～39歳」が33.6%で最も多く、次いで「30～34歳」が26.3%、「25～29歳」が17.2%で続きます。

N=482

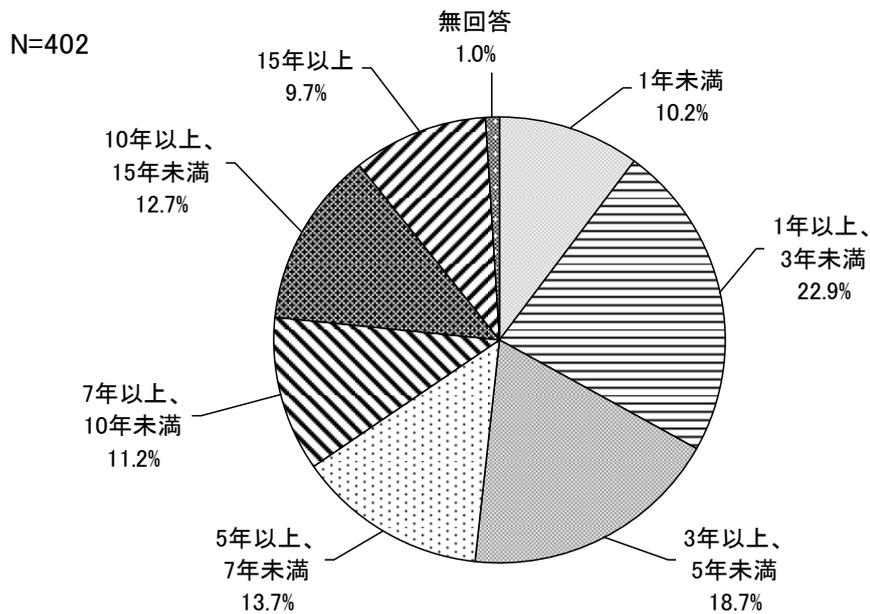


問3 小金井市での居住年数(○は1つだけ)

「生まれてからずっと住み続けている」は15.6%、「市外から引っ越してきた」が83.8%です。

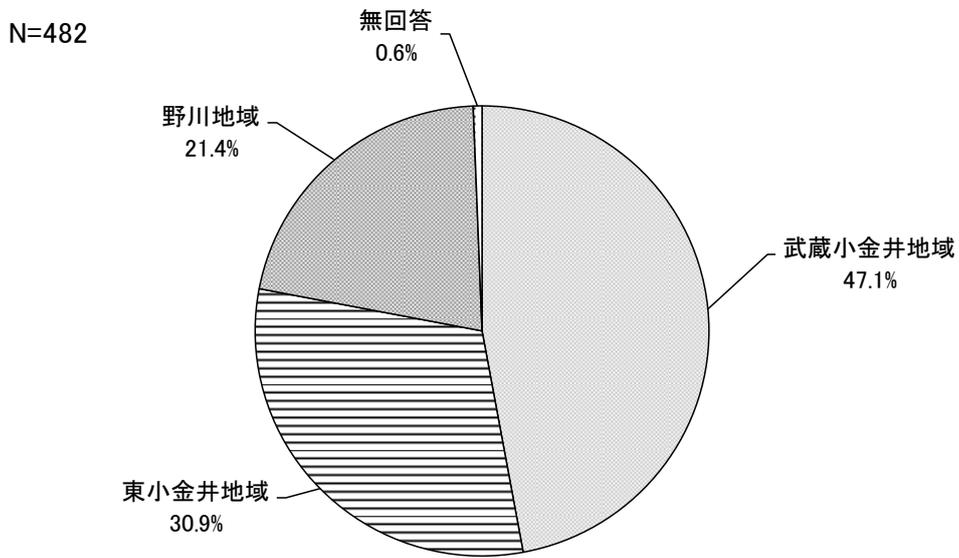


市外から引っ越してきた人(402人)の居住年数を見ると、「1年以上、3年未満」が22.9%で最も多く、次いで「3年以上、5年未満」が18.7%、「5年以上、7年未満」が13.7%で続きます。

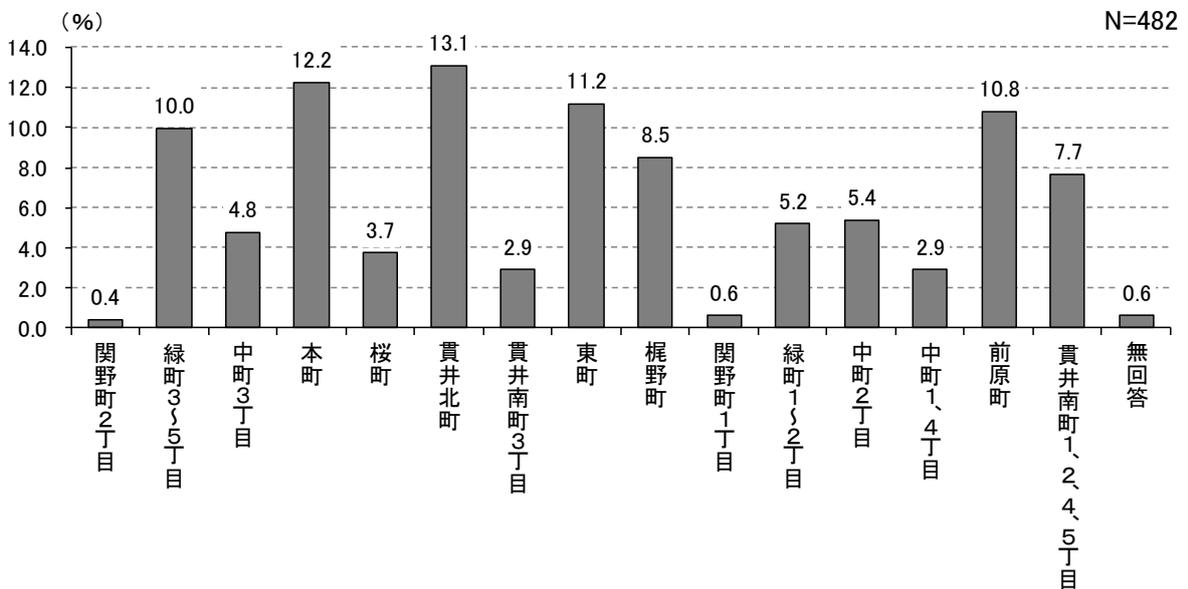


問4 あなたのお住まい(○は1つだけ)

「武蔵小金井地域」が47.1%、「東小金井地域」が30.9%、「野川地域」が21.4%です。

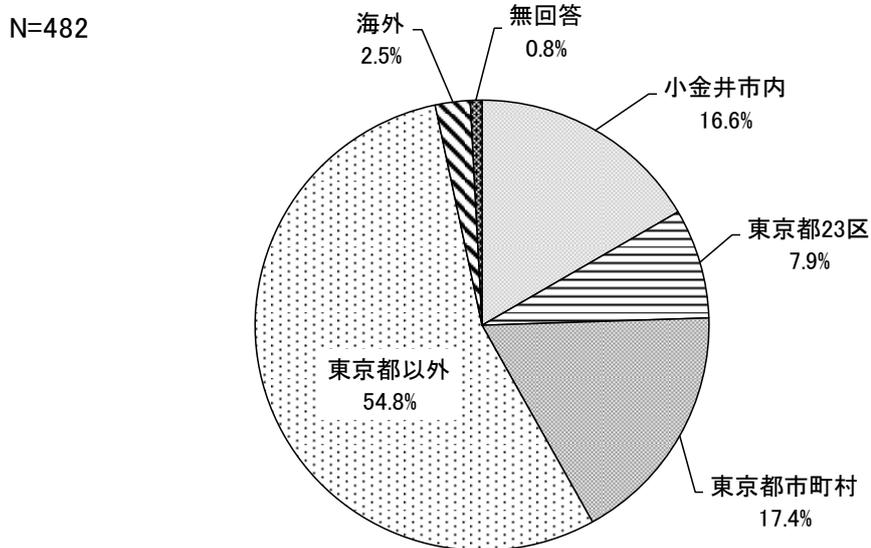


町丁目別にみると、「貫井北町」が13.1%で最も多く、次いで、「本町」が12.2%、「東町」が11.2%で続きます。



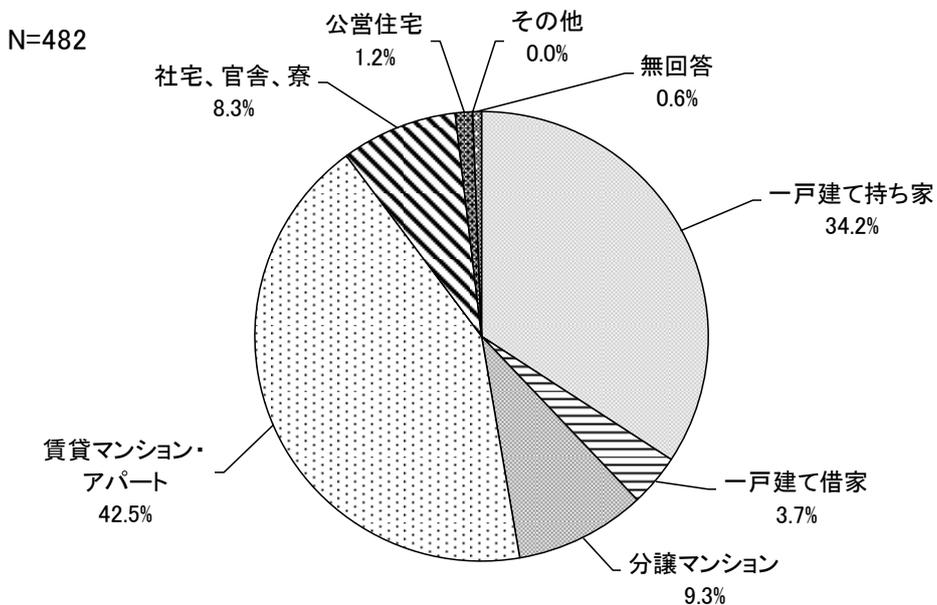
問5 あなたの出身地(○は1つだけ)

「東京都以外」が54.8%で最も多く、次いで「東京都市町村」が17.4%、「小金井市内」が16.6%で続きます。



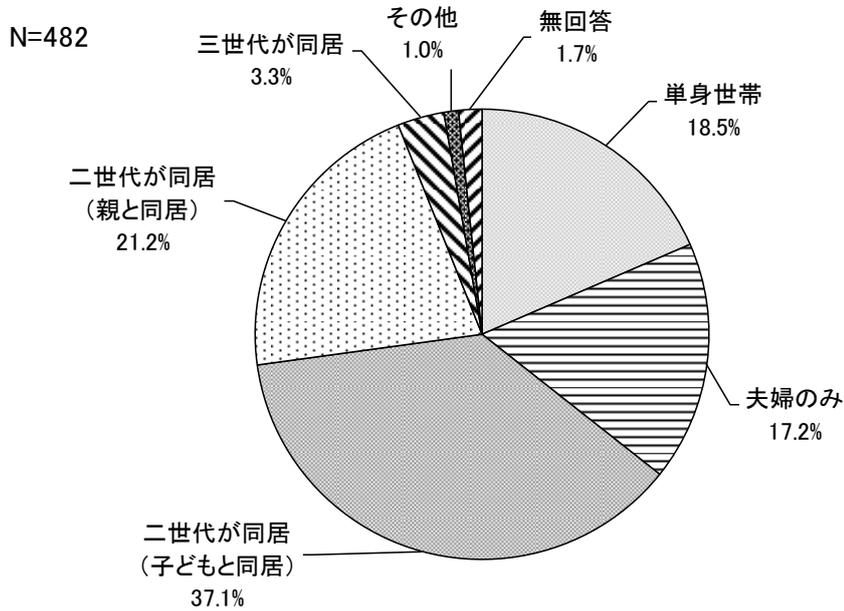
問6 あなたのお住まい(住居)(○は1つだけ)

「賃貸マンション・アパート」が42.5%で最も多く、次いで「一戸建て持ち家」が34.2%で続きます。分譲マンションを含めると、持ち家は43.5%です。一戸建ては37.9%です。



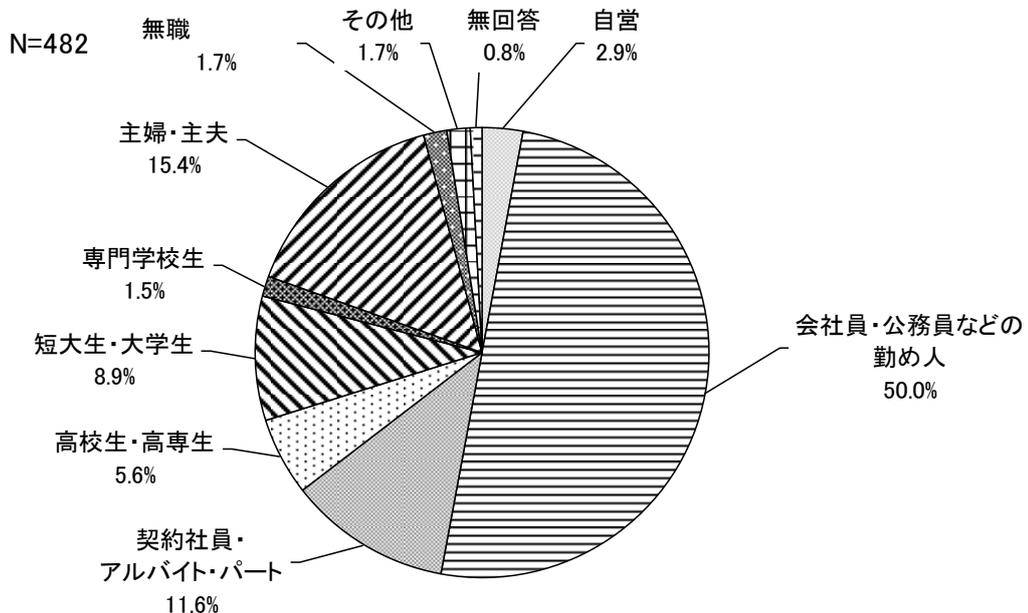
問7 あなたの世帯構成(○は1つだけ)

「二世帯が同居(子どもと同居)」が37.1%で最も多く、次いで「二世帯が同居(親と同居)」が21.2%、「単身世帯」が18.5%、「夫婦のみ」が17.2%で続きます。



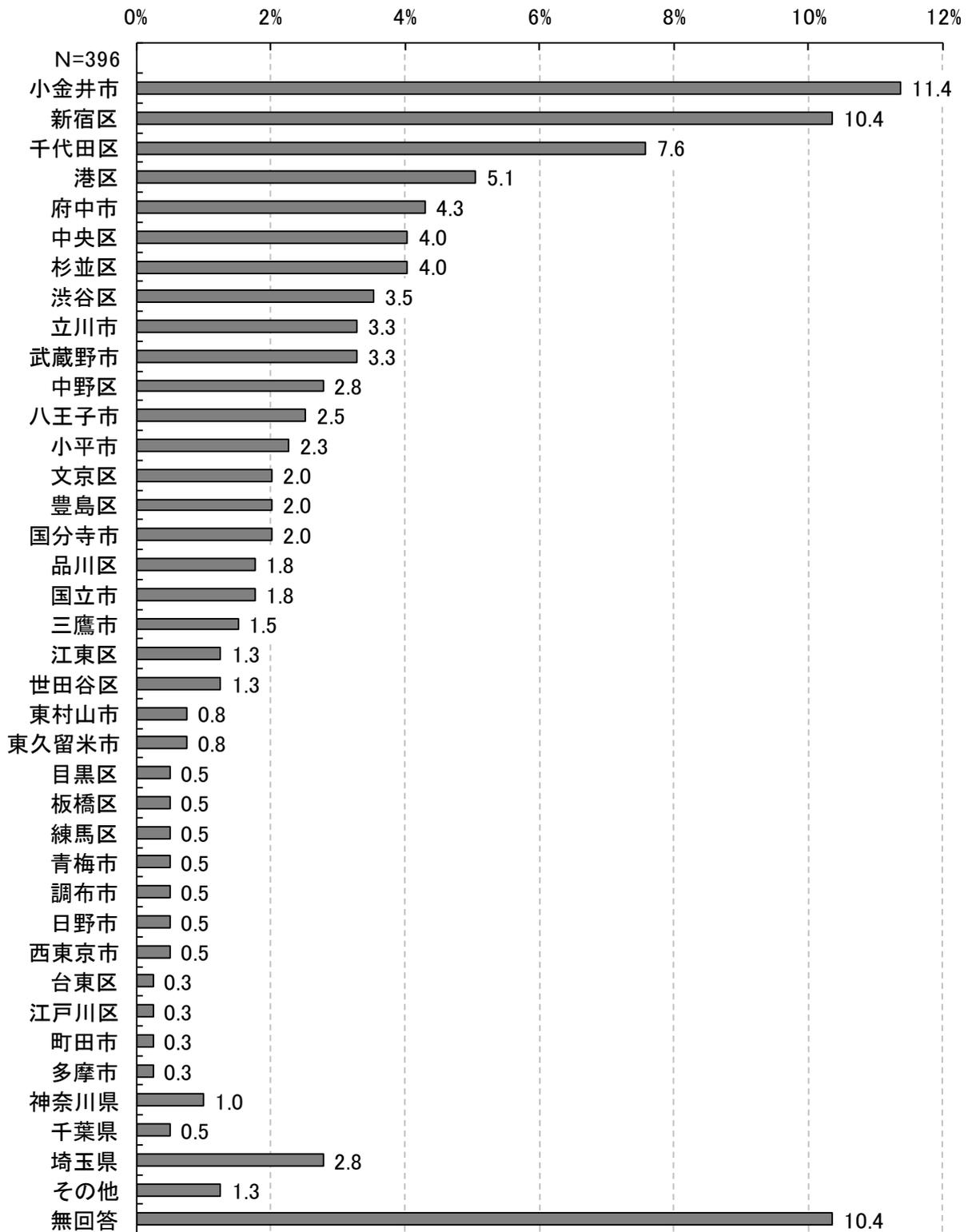
問8 あなたのお仕事(○は1つだけ)

「会社員・公務員などの勤め人」が50.0%で最も多く、次いで「主婦・主夫」が15.4%、「契約社員・アルバイト・パート」が11.6%、「短大生・大学生」が8.9%で続きます。



問9 問8で「1」～「6」を選択した人にお伺いします。どちらまで通勤・通学されていますか。(自治体名を記入ください) 《非該当:92件を除く》

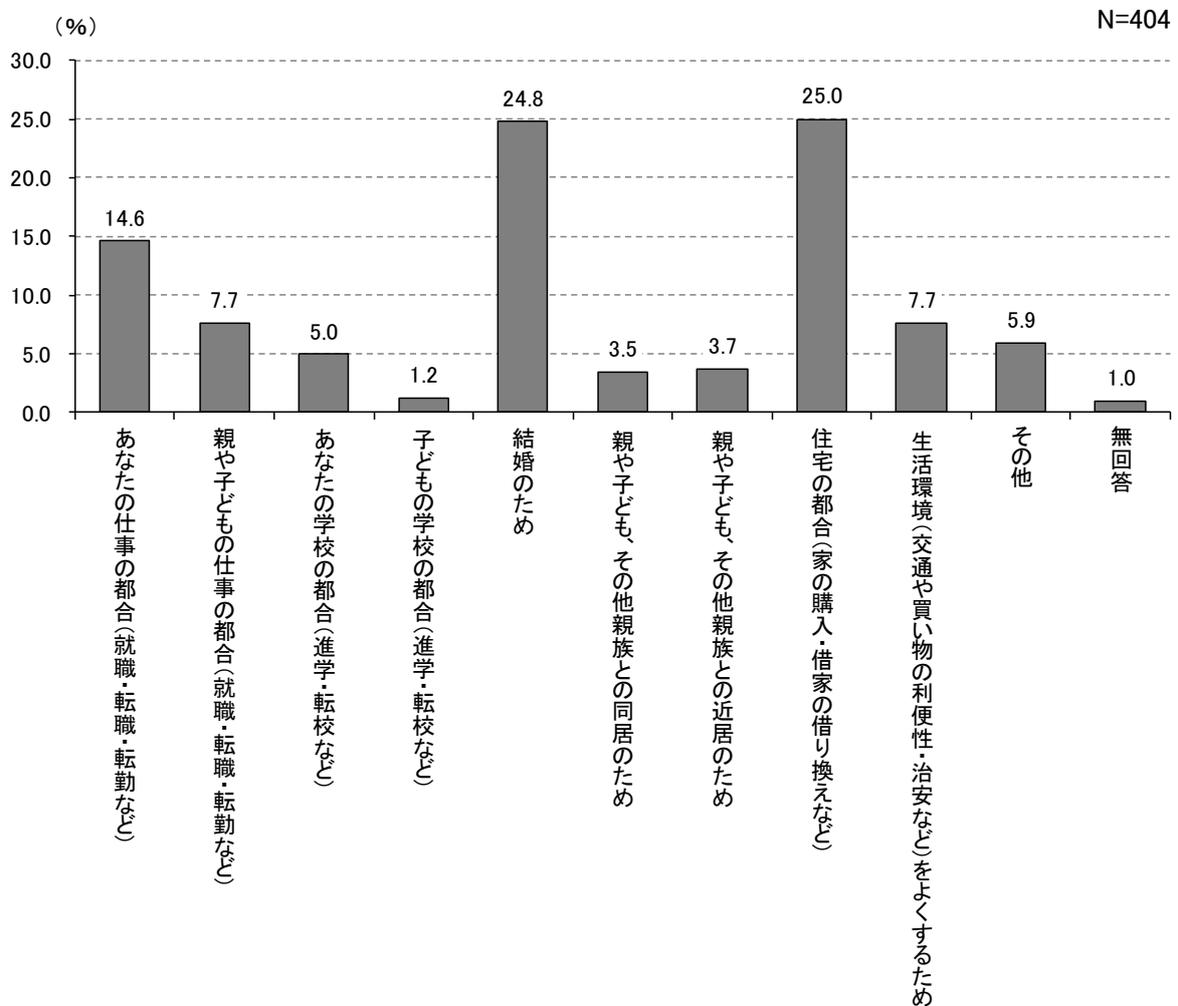
「小金井市」が11.4%で最も多く、次いで「新宿区」が10.4%、「千代田区」が7.6%で続きます。



3. 転入した理由や選択理由について（転入者向け）

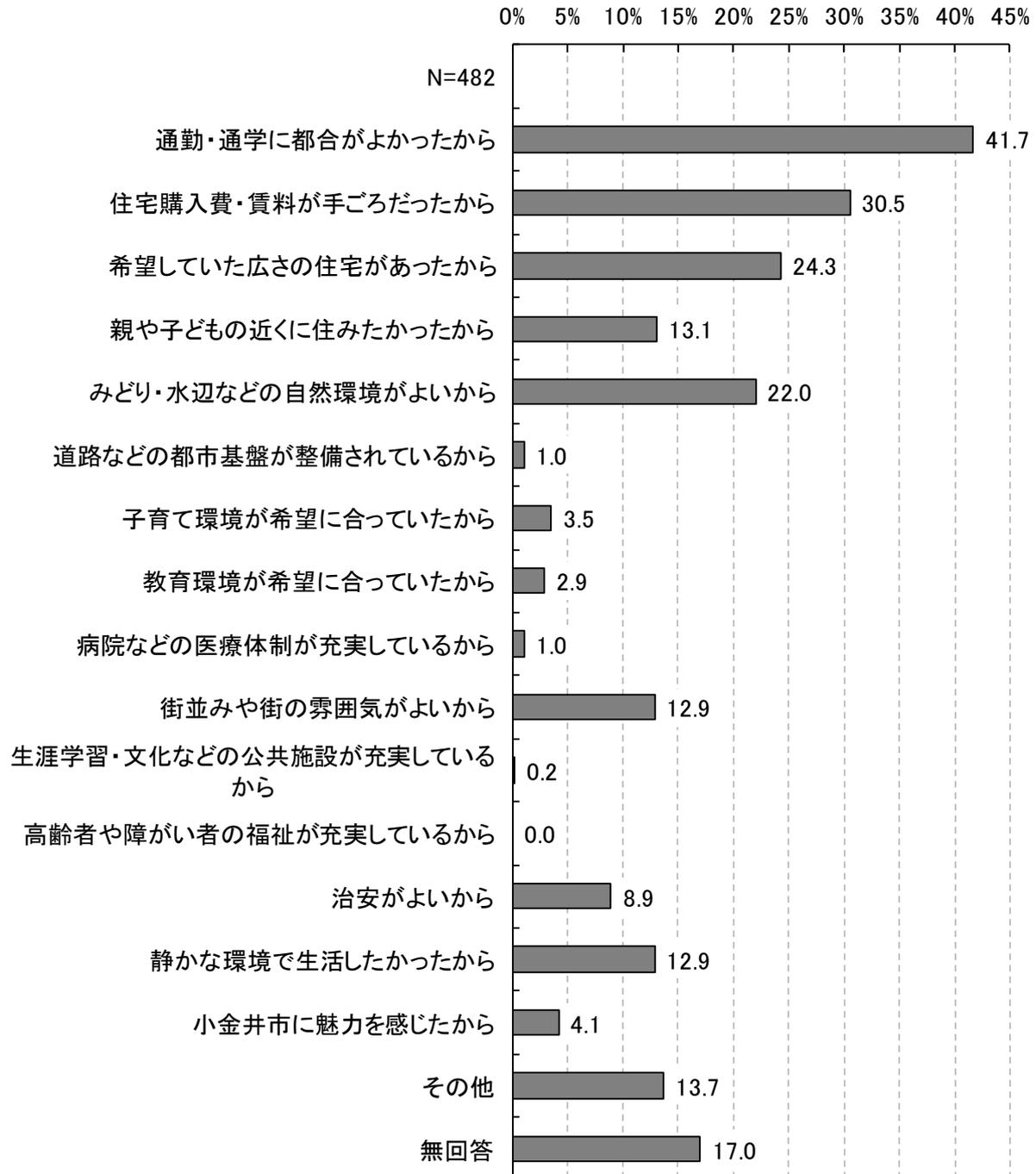
問10 転入の理由は何ですか。（最も大きな要因1つに○） 《非該当：78件を除く》

「住宅の都合（家の購入・借家の借り換えなど）」が25.0%で最も多く、次いで「結婚のため」が24.8%、「あなたの仕事の都合（就職・転職・転勤など）」が14.6%で続きます。



問11 小金井市を選択した理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

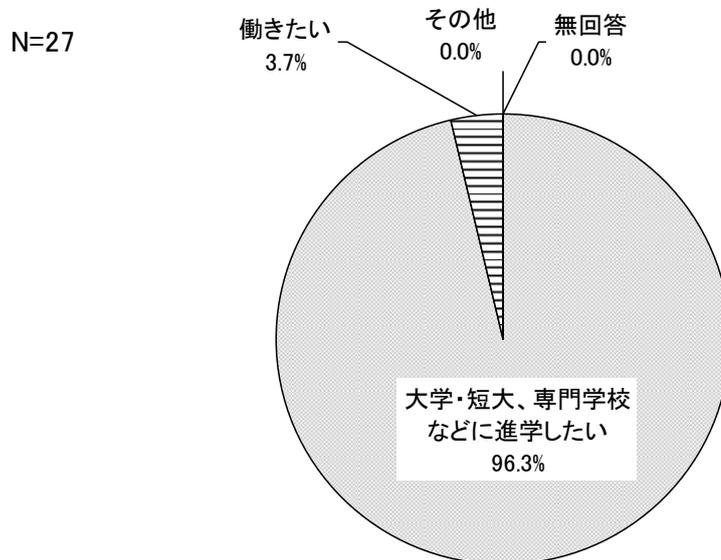
「通勤・通学に都合がよかったから」が41.7%で最も多く、次いで「住宅購入費・賃料が手ごろだったから」が30.5%、「希望していた広さの住宅があったから」が24.3%、「みどり・水辺などの自然環境がよいから」が22.0%で続きます。



4. 高校・大学等の卒業後の進路や就職観について（学生向け）

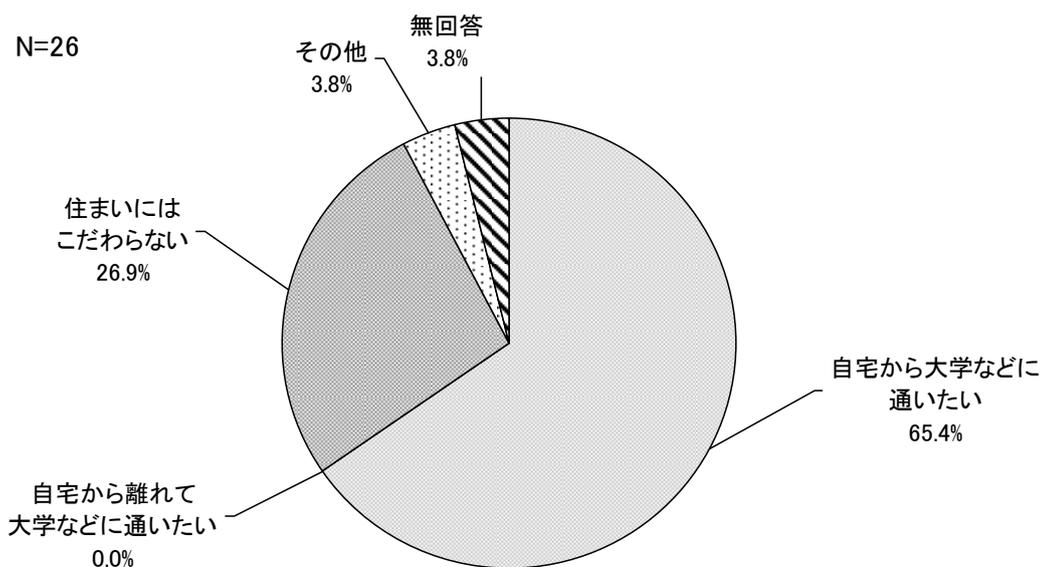
問12 高校卒業後の進路はどのように考えていますか。（○は1つだけ） 《非該当:455件を除く》

「大学・短大、専門学校などに進学したい」が96.3%、「働きたい」は3.7%です。



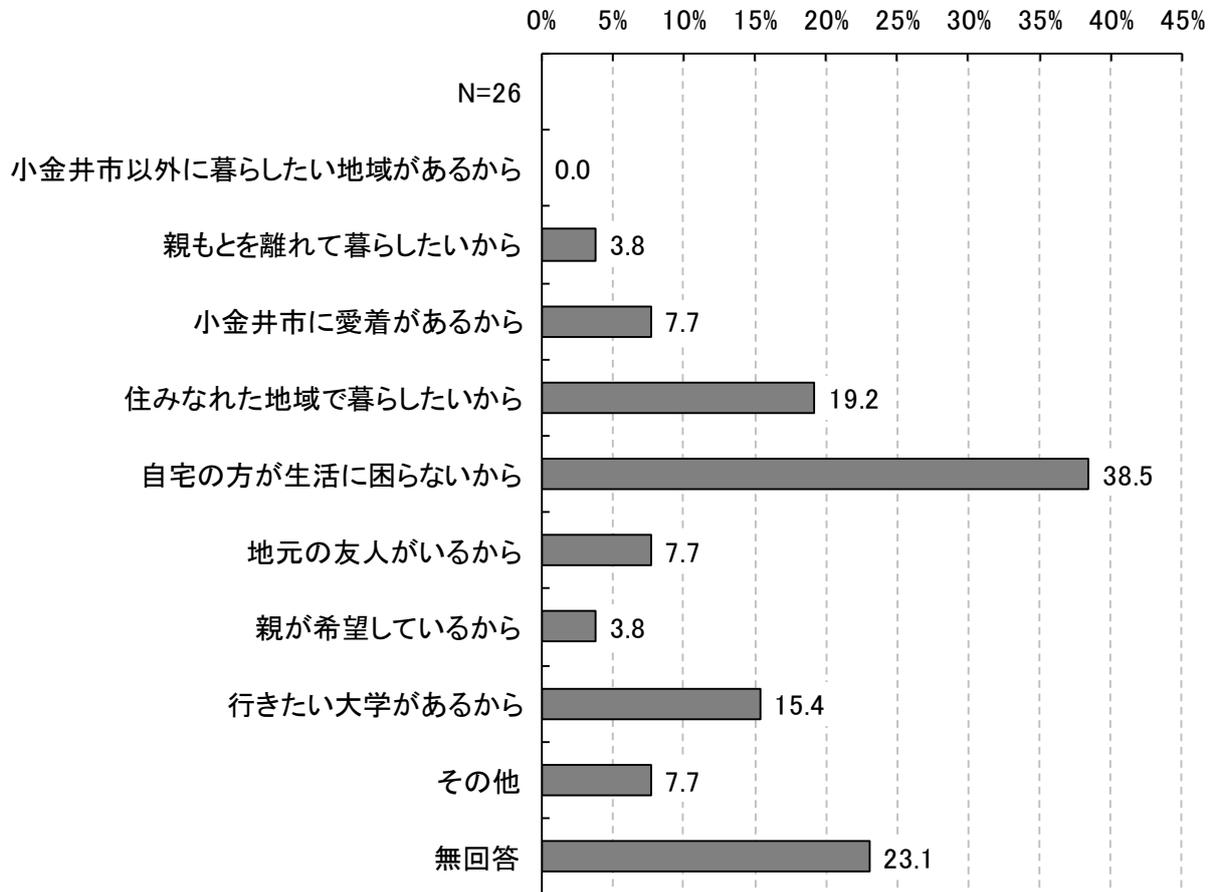
問13 問12で「1」と回答した方にお伺いします。学生生活を送る上での住まいはどのように考えていますか。（○は1つだけ） 《非該当:456件を除く》

「自宅から大学などに通いたい」が65.4%で最も多く、次いで「住まいにはこだわらない」が26.9%です。「自宅から離れて大学などに通いたい」は0%でした。



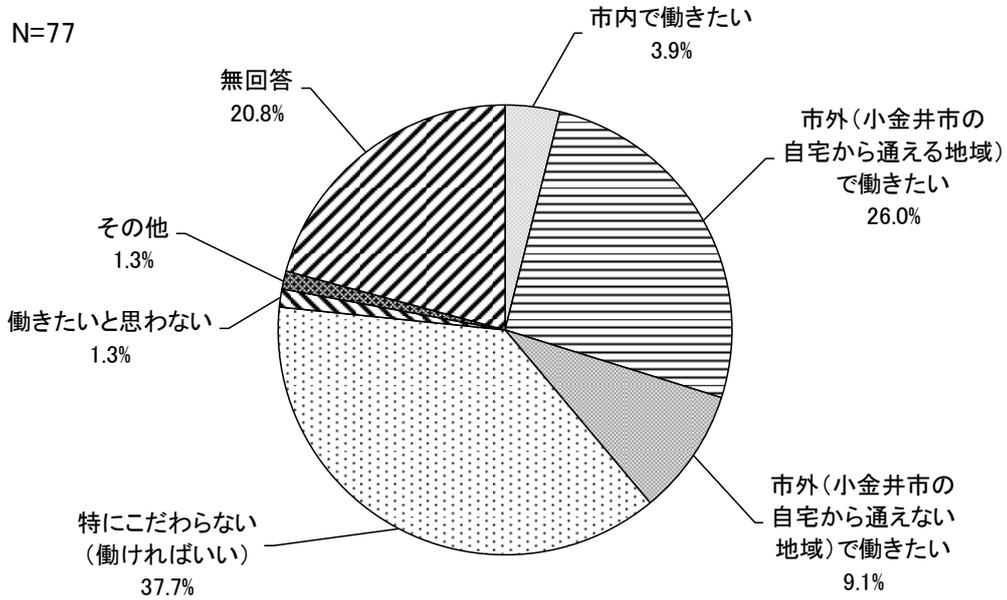
問14 問13の回答のように住まいを希望する理由はなんですか。(〇は3つまで) 《非該当:456件を除く》

「自宅の方が生活に困らないから」が38.5%で最も多く、次いで「住みなれた地域で暮らしたいから」が19.2%、「行きたい大学があるから」が15.4%で続きます。



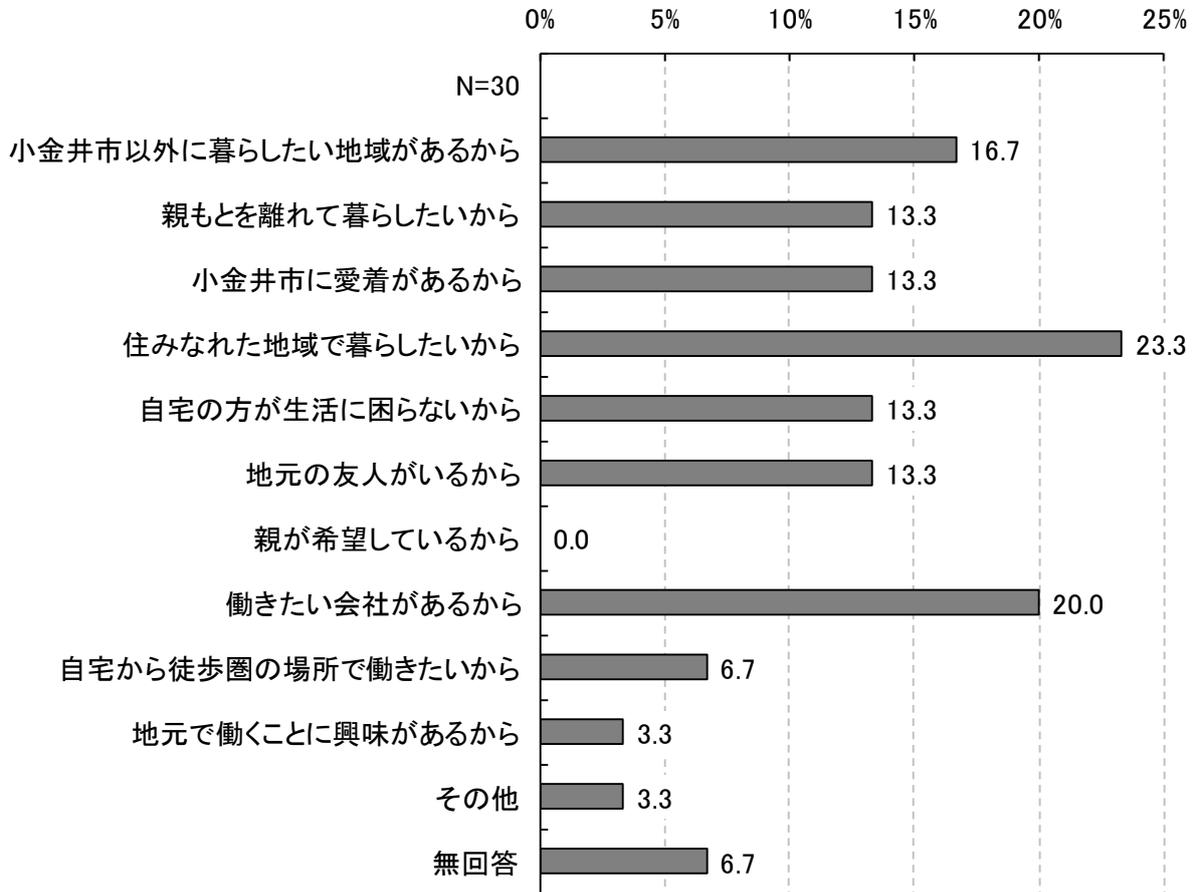
問15 就職先の地域に関して希望はありますか。(〇は1つだけ) 《非該当:405件を除く》

「特にこだわらない(働ければいい)」が37.7%で最も多く、次いで「市外(小金井市の自宅から通える地域)で働きたい」が26.0%、「市外(小金井市の自宅から通えない地域)で働きたい」が9.1%で続きます。



問16 問15で「1」～「3」と回答した方にお伺いします。問15の回答のように働く場所を考える理由は何ですか。(〇は3つまで)《非該当:452件を除く》

「住みなれた地域で暮らしたいから」が23.3%で最も多く、次いで、「働きたい会社があるから」が20.0%、「小金井市以外で暮らしたい地域があるから」が16.7%で続きます。



問17 問14で「1」を選んだ方、または問16で「1」を選んだ方にお伺いします。暮らしたい地域とその理由は何ですか。(地域や街の名前)

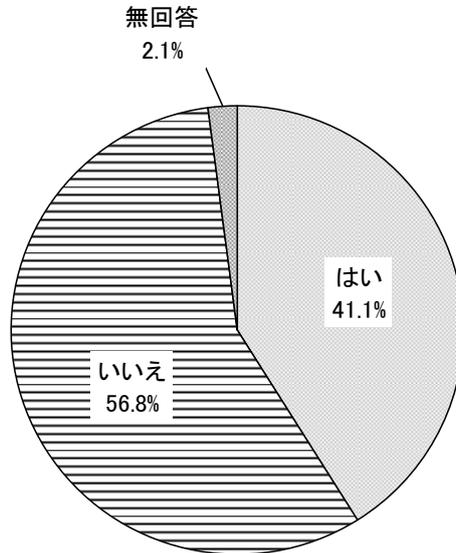
- ・茨城県:故郷で働きたい
- ・中央・港・新宿区:利便性が高いので
- ・23区内:都心に近い方が買い物もおいしい店もあるから

5. 出産・子育てに関する意向について

問18 現在、お子さんはいますか。(〇は1つだけ)

子どものいる人が41.1%、いない人が56.8%です。

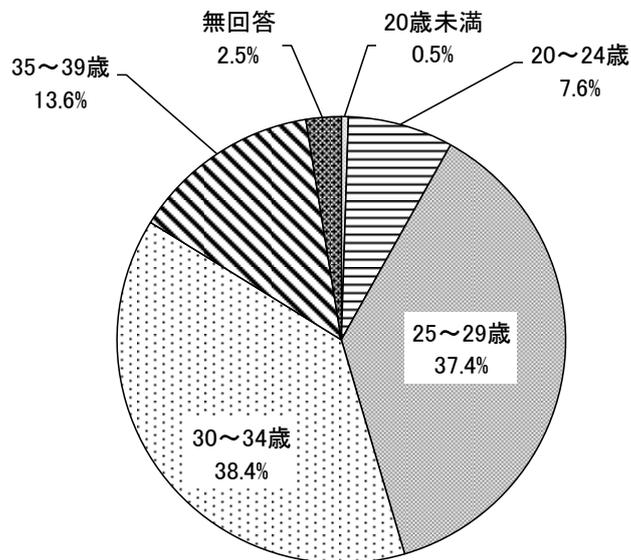
N=482



問19 問18で「1」と回答した方にお伺いします。第一子がお生まれになったのは、あなたが何歳のときですか。《非該当: 284件を除く》

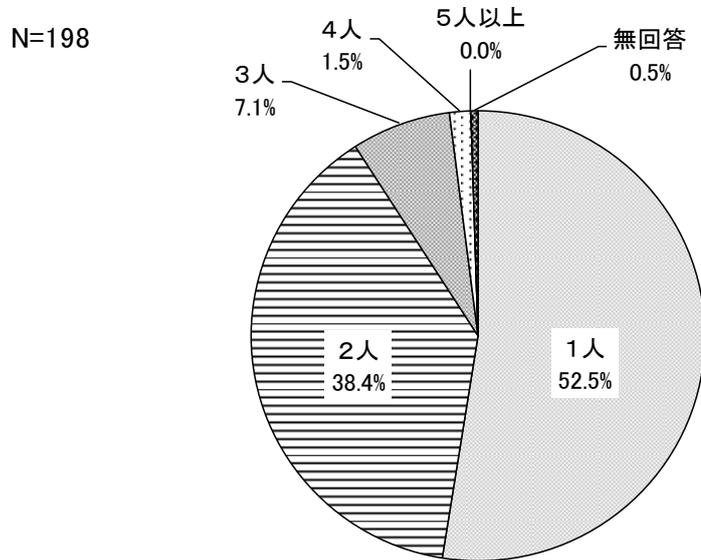
「30～34歳」が38.4%で最も多く、次いで「25～29歳」が37.4%、「35～39歳」が13.6%で続きます。

N=198



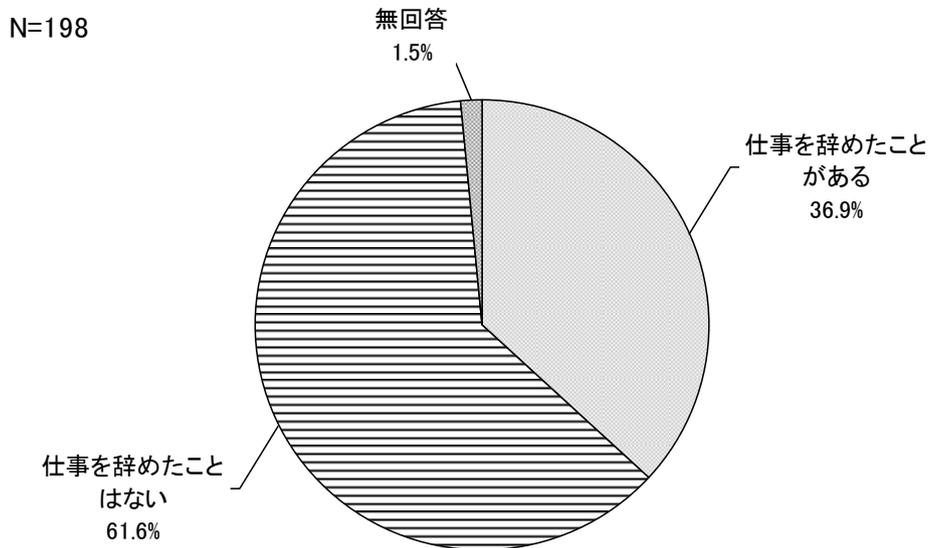
問20 問18で「1」と回答した方にお伺いします。あなたのお子さんの人数は何人ですか。
(○は1つだけ) 《非該当:284件を除く》

「1人」が52.5%で最も多く、次いで「2人」が38.4%で続きます



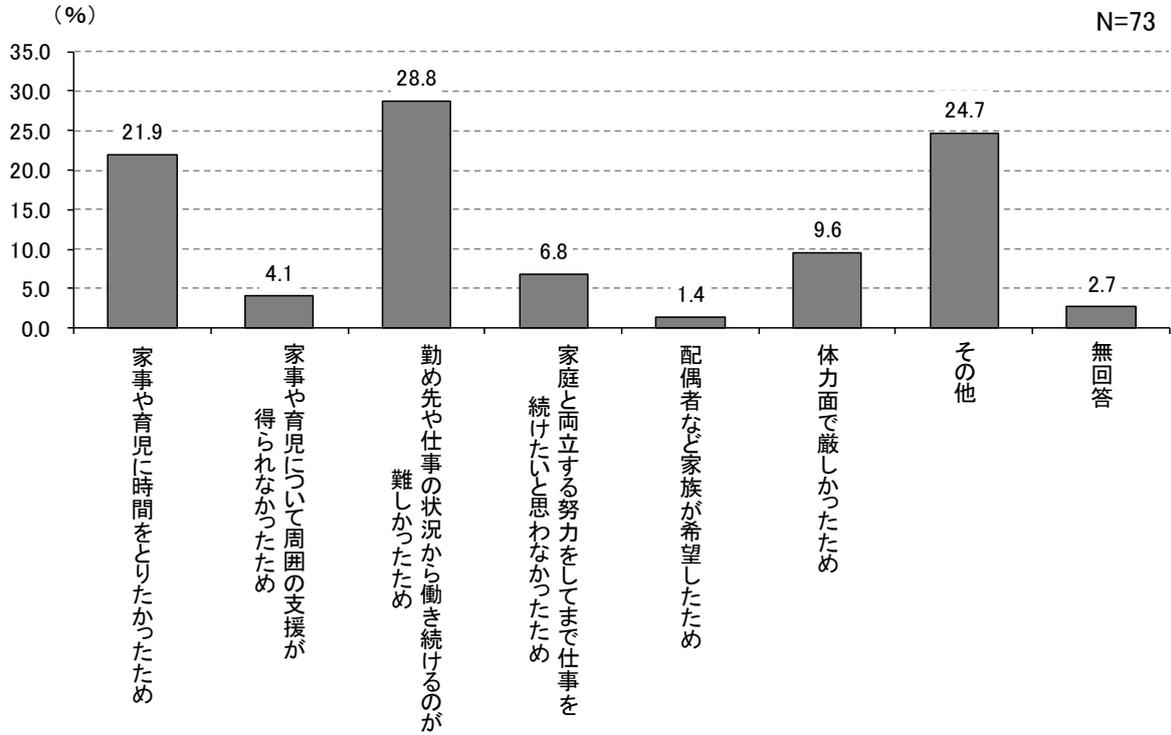
問21 問18で「1」と回答した方にお伺いします。お子さんが生まれたことをきっかけに仕事を辞めたことがありますか。(○は1つだけ) 《非該当:284件を除く》

「仕事を辞めたことがある」が36.9%、「仕事を辞めたことはない」が61.6%です。



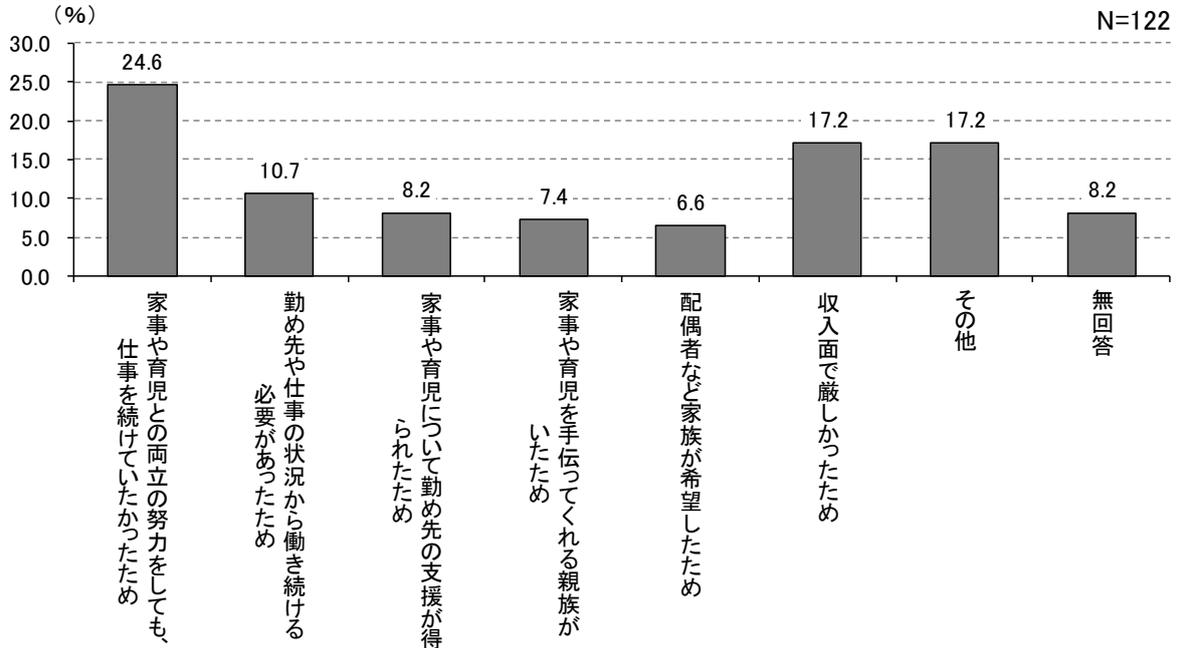
問22 問21で「1」と回答した方にお伺いします。仕事を辞めた理由は何ですか。(〇は1つだけ)
 《非該当:409件を除く》

「勤め先や仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」が28.8%で最も多く、次いで「家事や育児に時間をとりたかったため」が21.9%で続きます。



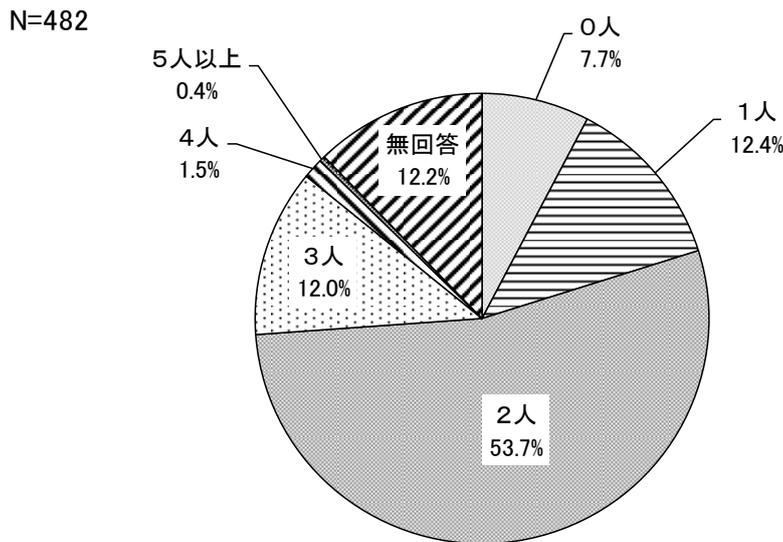
問23 問21で「2」と回答した方にお伺いします。仕事を続けた理由は何ですか。(〇は1つだけ)
 《非該当:360件を除く》

「家事が育児との両立の努力をしても、仕事を続けていたかったため」が24.6%で最も多く、次いで「収入面で厳しかったため」が17.2%で続きます。



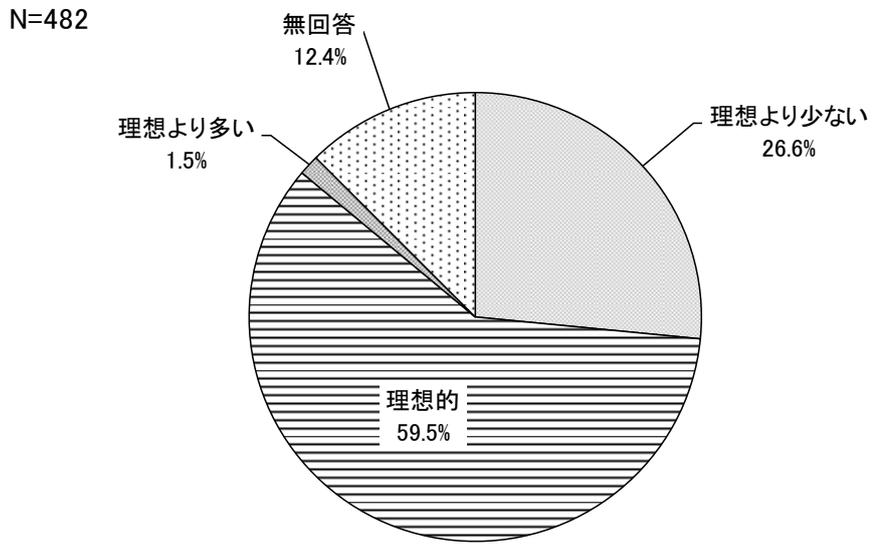
問24 あなたが最終的に持つつもりのお子さんの人数をご回答ください。(〇は1つだけ)

「2人」が53.7%で最も多く、次いで「1人」が12.4%、「3人」が12.0%で続きます。

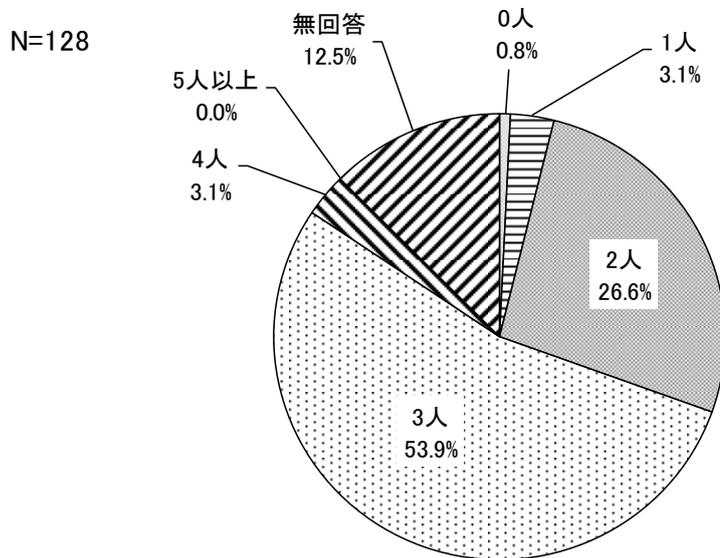


問25 最終的に持つつもりのお子さんの人数はあなたにとって理想的ですか。(〇は1つだけ)

「理想的」が59.5%、「理想より少ない」は26.6%です。

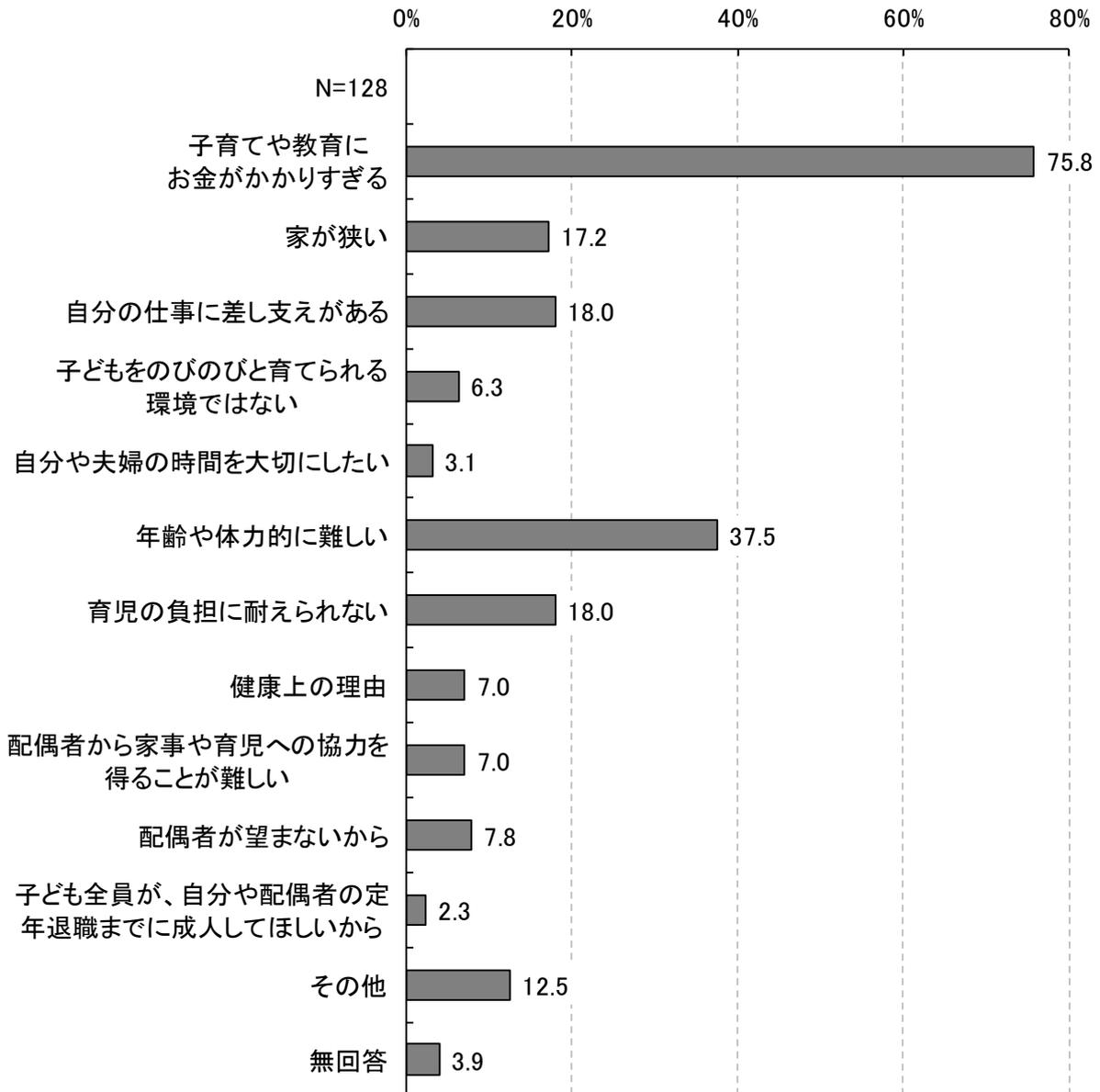


「理想より少ない」と回答した人(128人)の理想的な子どもの数をみると、「3人」が53.9%で最も多く、次いで「2人」が26.6%で続きます。



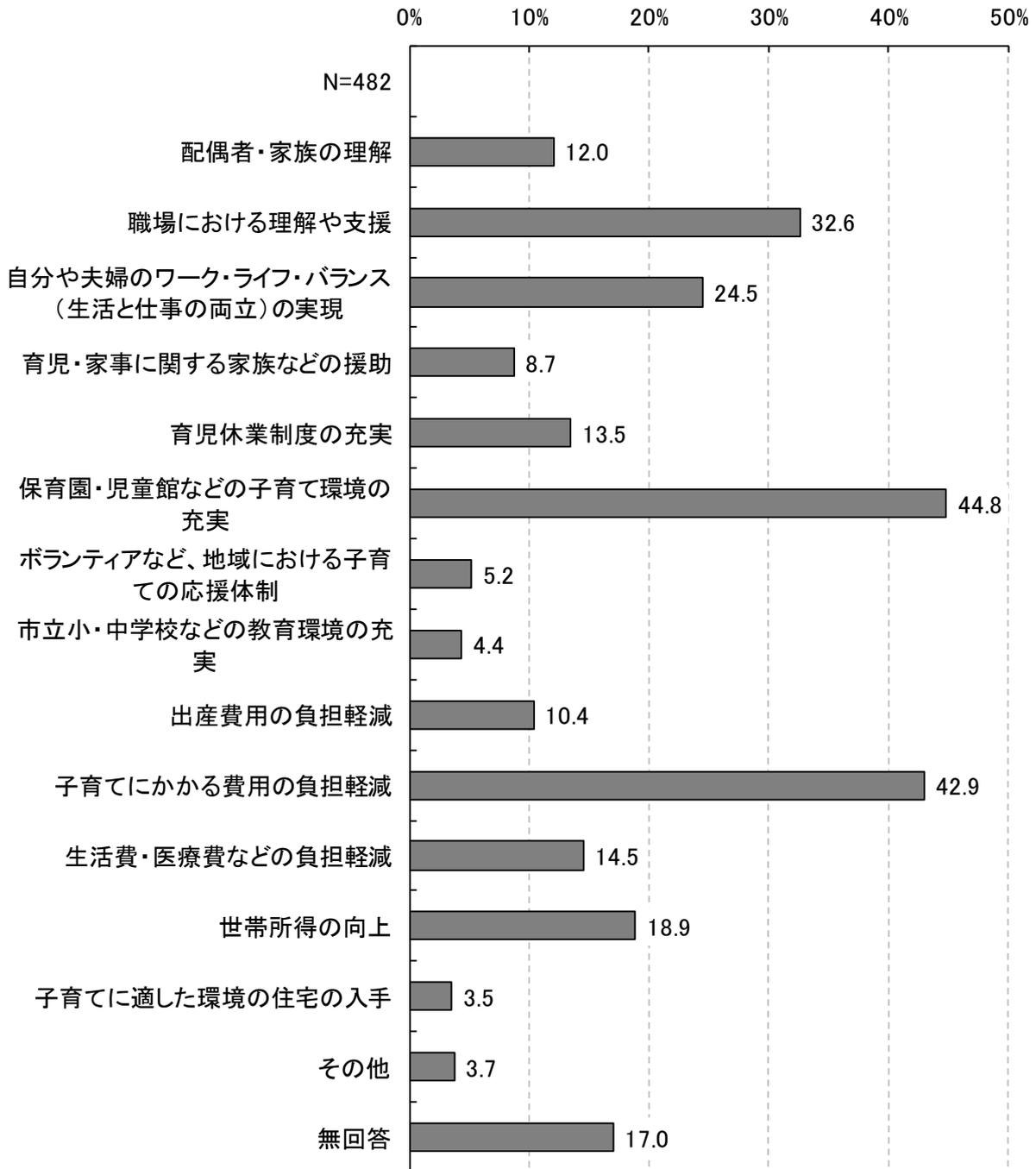
問26 問25で「1」と回答した方にお伺いします。その(最終的に持つつもりの子どもが理想的でない)理由は何ですか。(〇は3つまで) 《非該当:354件を除く》

「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が75.8%で最も多く、次いで「年齢や体力的に難しい」が37.5%、「自分の仕事に差し支えがある」、「育児の負担に耐えられない」が18.0%、「家が狭い」が17.2%で続きます。



問27 少子高齢化が進んでいますが、一般的に、どのような条件がそろえば子どもを産み育てやすくなると思いますか。(〇は3つまで)

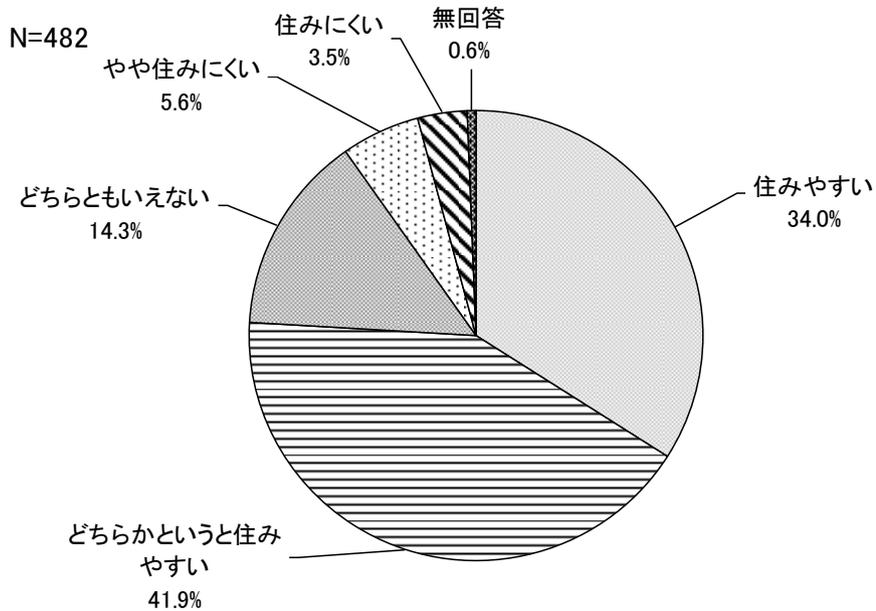
「保育園・児童館などの子育て環境の充実」が44.8%で最も多く、次いで「子育てにかかる費用の負担軽減」が42.9%、「職場における理解や支援」が32.6%、「自分や夫婦のワーク・ライフ・バランス(生活と仕事の両立)の実現」が24.5%で続きます。



6. 小金井市の住みやすさや定住意向について

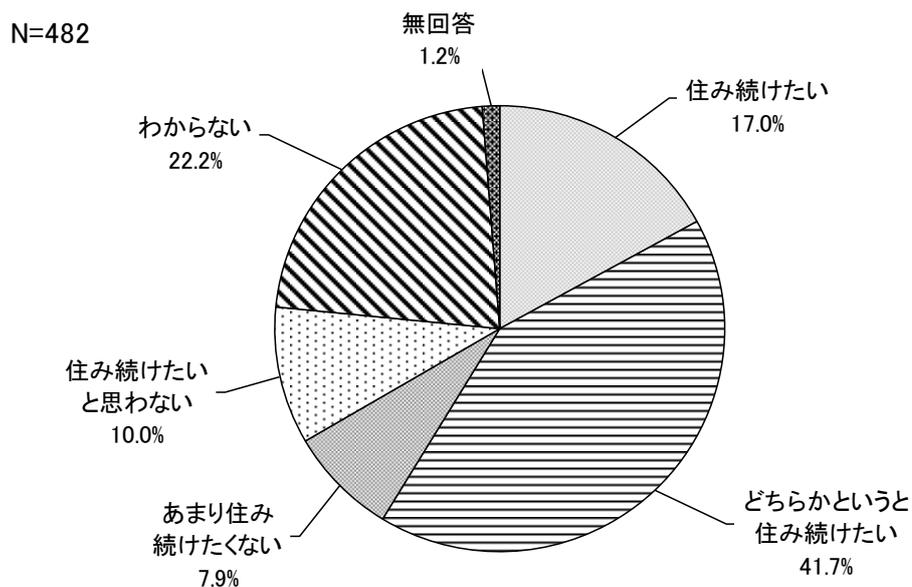
問28 小金井市は住みやすいと思いますか。(○は1つだけ)

「どちらかという住みやすい」が41.9%で最も多く、次いで「住みやすい」が34.0%、「どちらともいえない」が14.3%で続きます。「住みやすい」「どちらかという住みやすい」の合計は7割半ばを超えています。



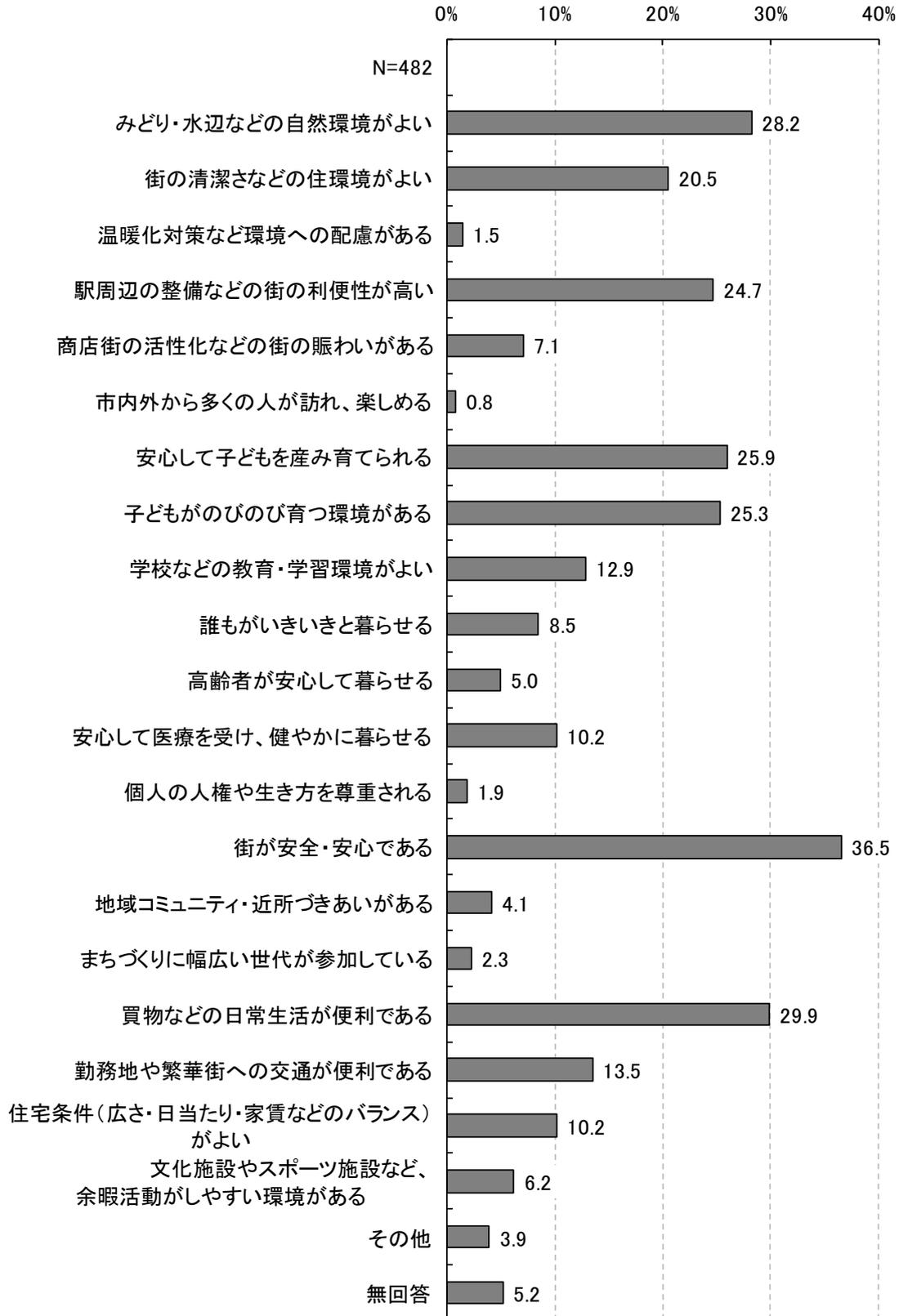
問29 将来、小金井市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

「どちらかという住み続けたい」が41.7%で最も多く、次いで「わからない」が22.2%、「住み続けたい」が17.0%で続きます。「住み続けたい」「どちらかという住み続けたい」の合計は約6割です。



問30 「住みたいまち」とはどんなまちだとお考えですか。(〇は3つまで)

「街が安全・安心である」が36.5%で最も多く、次いで「買い物等の日常生活が便利である」が29.9%、「みどり・水辺などの自然環境がよい」が28.2%、「安心して子どもを産み育てられる」が25.9%で続きます。

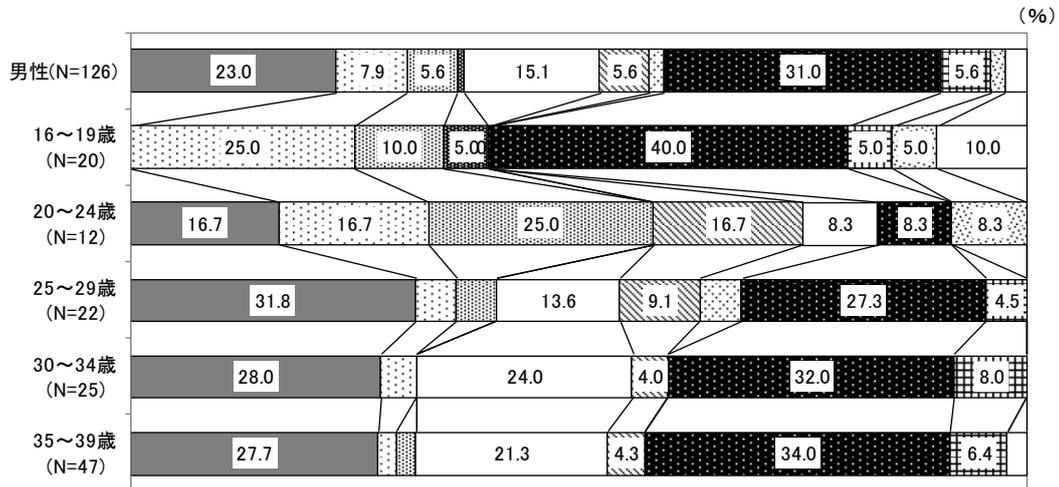


7. 性別・年代別による分析

問10 転入の理由は何ですか。(最も大きな要因1つに○) 《非該当：77件を除く》

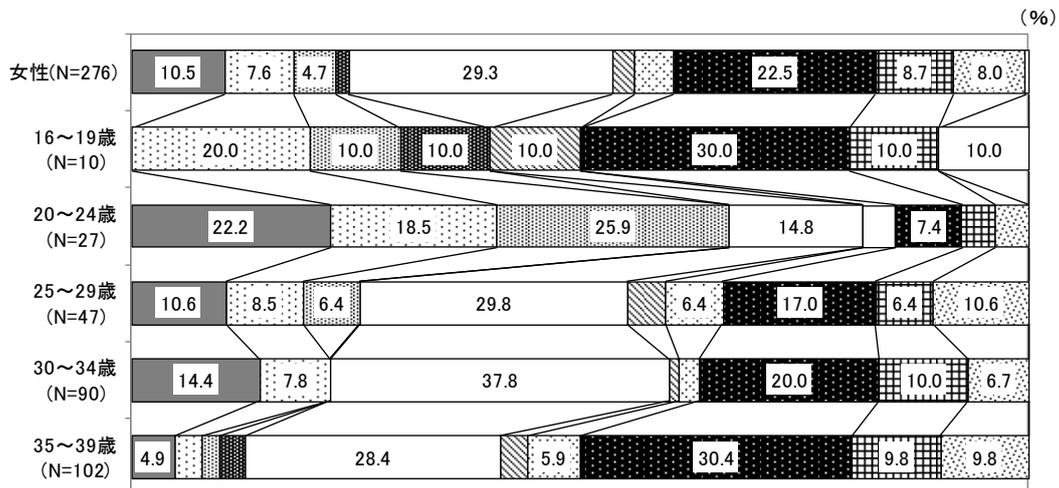
性別で見ると、男性は女性よりも「あなたの仕事の都合(就職・転職・転勤など)」「住宅の事情(家の購入・借家の借り換えなど)」が多く、女性は男性よりも「結婚のため」が多いです。

男性・女性を問わず、20～24歳で「あなたの学校の都合(進学・転校など)」が多いことが特徴です。



- あなたの仕事の都合(就職・転職・転勤など)
- あなたの学校の都合(進学・転校など)
- 結婚のため
- 親や子ども、その他親族との同居のため
- 親や子ども、その他親族との近居のため
- 生活環境(交通や買い物の利便性・治安など)をよくするため
- 無回答
- 親や子どもの仕事の都合(就職・転職・転勤など)
- 子どもの学校の都合(進学・転校など)
- 親や子ども、その他親族との同居のため
- 住宅の都合(家の購入・借家の借り換えなど)
- その他

【男性：年代別にみた転入理由】

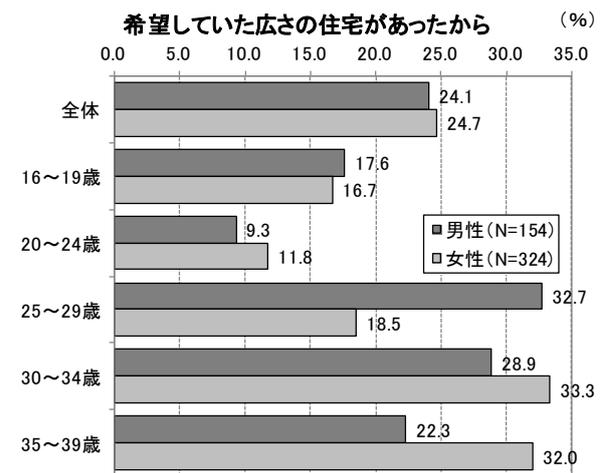
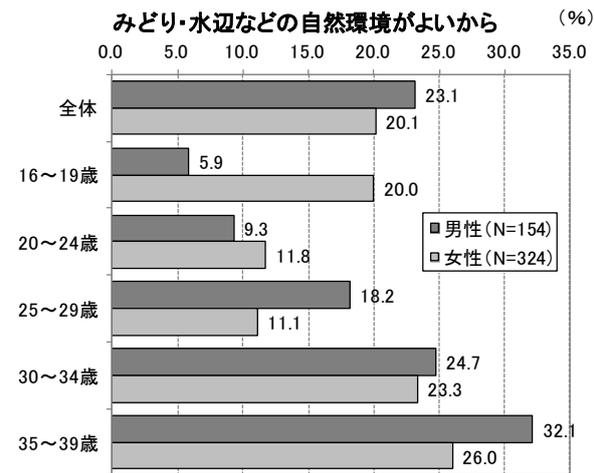
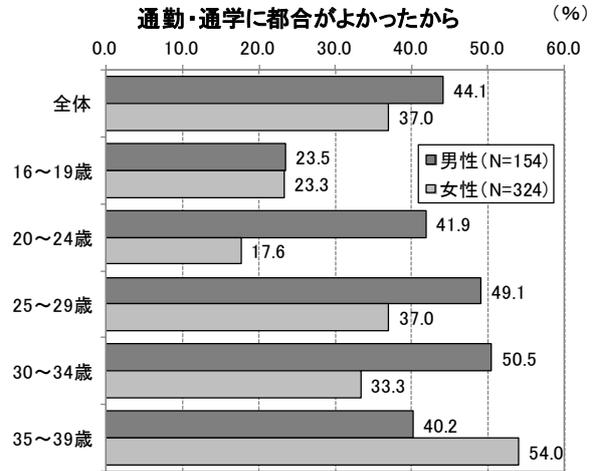
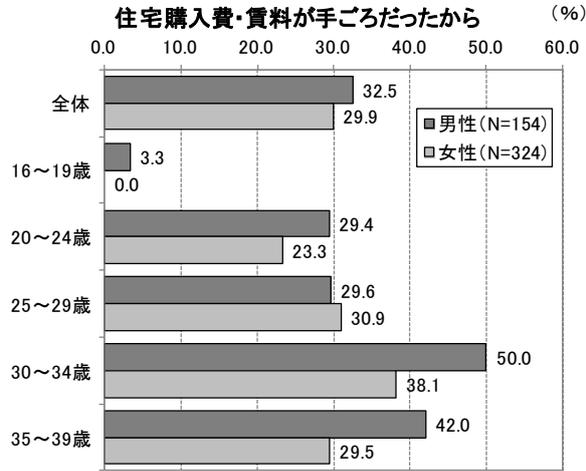


- あなたの仕事の都合(就職・転職・転勤など)
- あなたの学校の都合(進学・転校など)
- 結婚のため
- 親や子ども、その他親族との同居のため
- 親や子ども、その他親族との近居のため
- 生活環境(交通や買い物の利便性・治安など)をよくするため
- 無回答
- 親や子どもの仕事の都合(就職・転職・転勤など)
- 子どもの学校の都合(進学・転校など)
- 親や子ども、その他親族との同居のため
- 住宅の都合(家の購入・借家の借り換えなど)
- その他

【女性：年代別にみた転入理由】

問11 小金井市を選択した理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

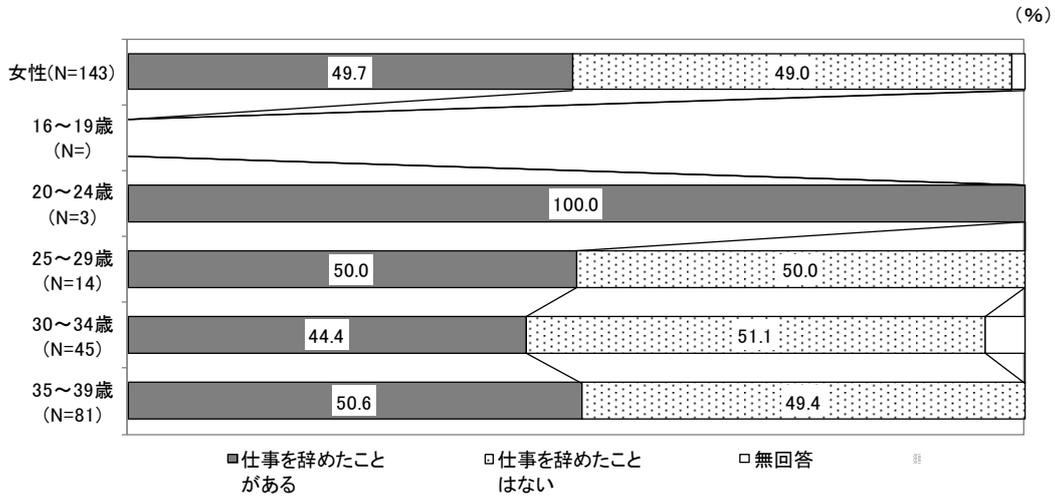
小金井市を選択した理由上位4項目について、性別・年代別にみると、男性の30～34歳で「住宅購入費・賃料が手ごろだったから」が特に多く、また20～34歳で「通勤・通学に都合がよかったから」が多いです。



【性別・年代別にみた小金井市を選んだ理由(上位4項目)】

問21 問18で「1」と回答した方にお伺いします。お子さんが生まれたことをきっかけに仕事を辞めたことがありますか。(〇は1つだけ) ※女性のみ

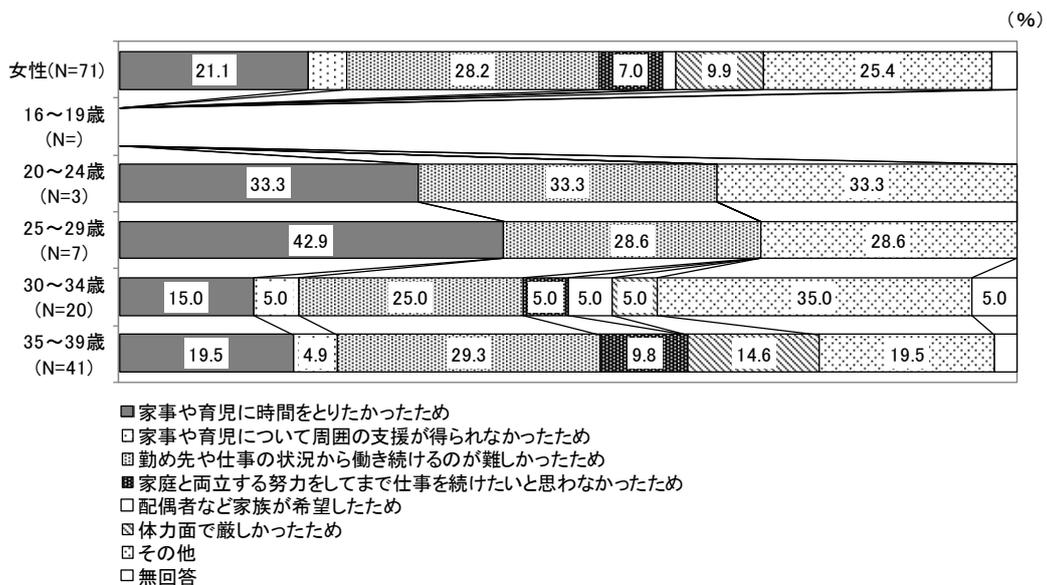
女性について、年代別にはあまり違いがみられず(20～24歳は3名なので割愛します)、仕事を辞めたことのある人、ない人は同程度の割合です。



【女性：年代別にみた仕事を辞めた経験の有無】

問22 問21で「1」と回答した方にお伺いします。仕事を辞めた理由は何ですか。(〇は1つだけ) ※女性のみ

女性について、年代別にみると、20題では「家事や育児に時間を取りたかったため」が多い一方、30～34歳では、「勤め先と仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」が多いです。

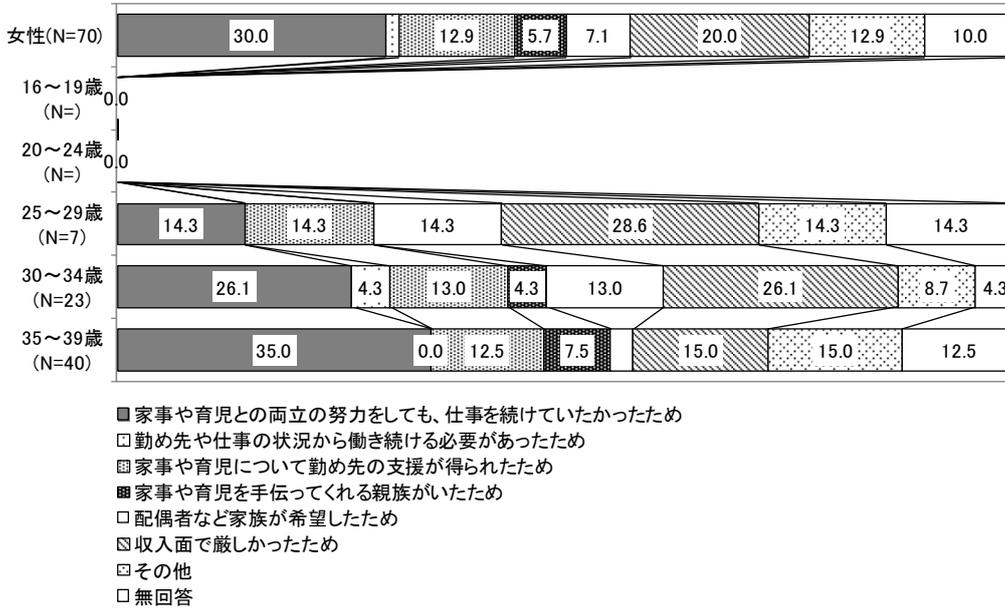


【女性：年代別にみた仕事を辞めた理由】

問23 問21で「2」と回答した方にお伺いします。仕事を続けた理由は何ですか。(〇は1つだけ)
 ※女性のみ

女性について、年代別にみると、年齢が上がるにつれて「家事と育児との両立を努力しても、仕事を続けていたかったため」が多くなります。25～34歳では「収入面で厳しかったため」も多いです。

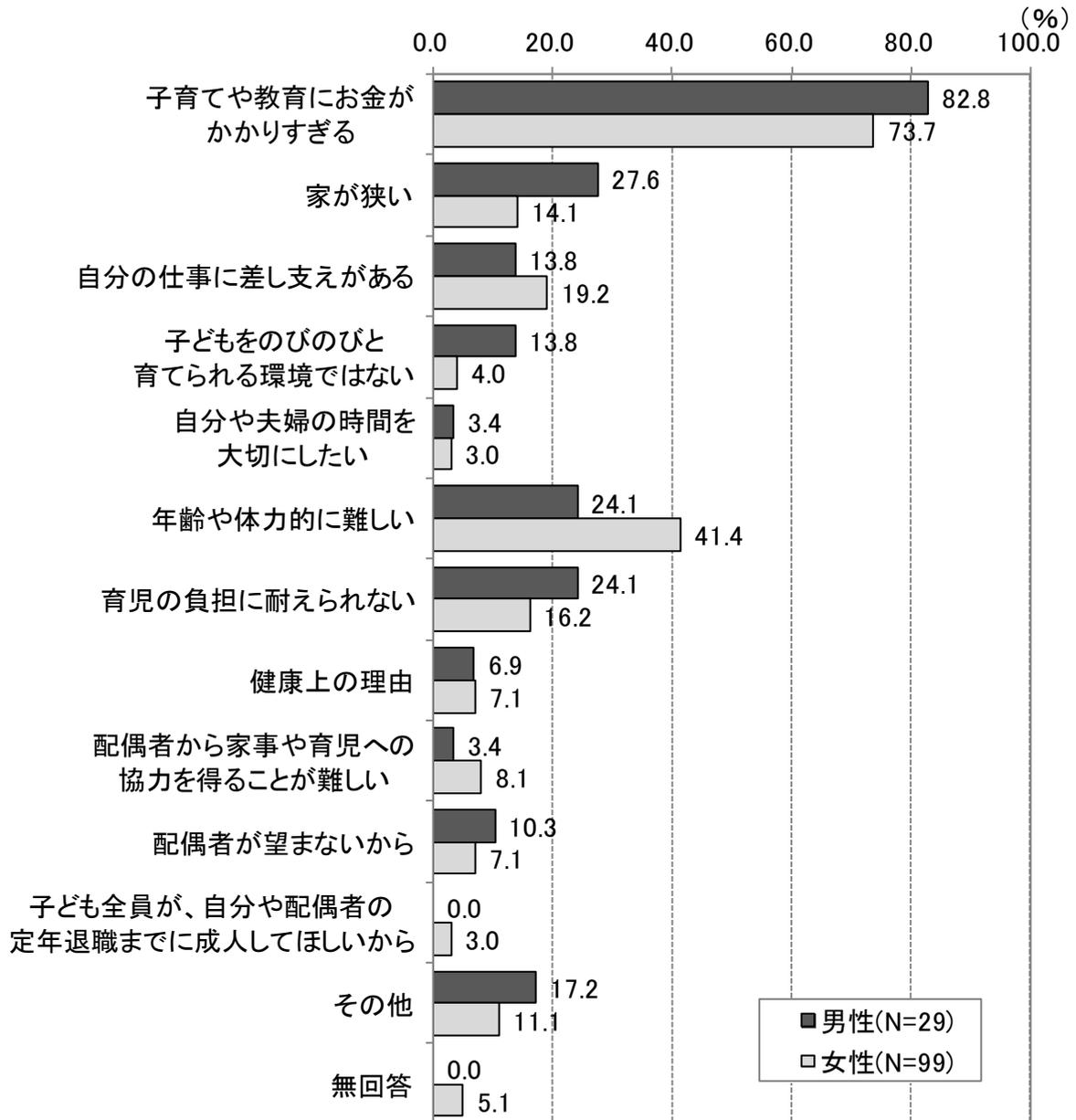
(%)



【女性:年代別にみた仕事を続けた理由】

問26 問25で「1」と回答した方にお伺いします。その(最終的に持つつもりの子どもが理想的でない)理由は何ですか。(〇は3つまで)

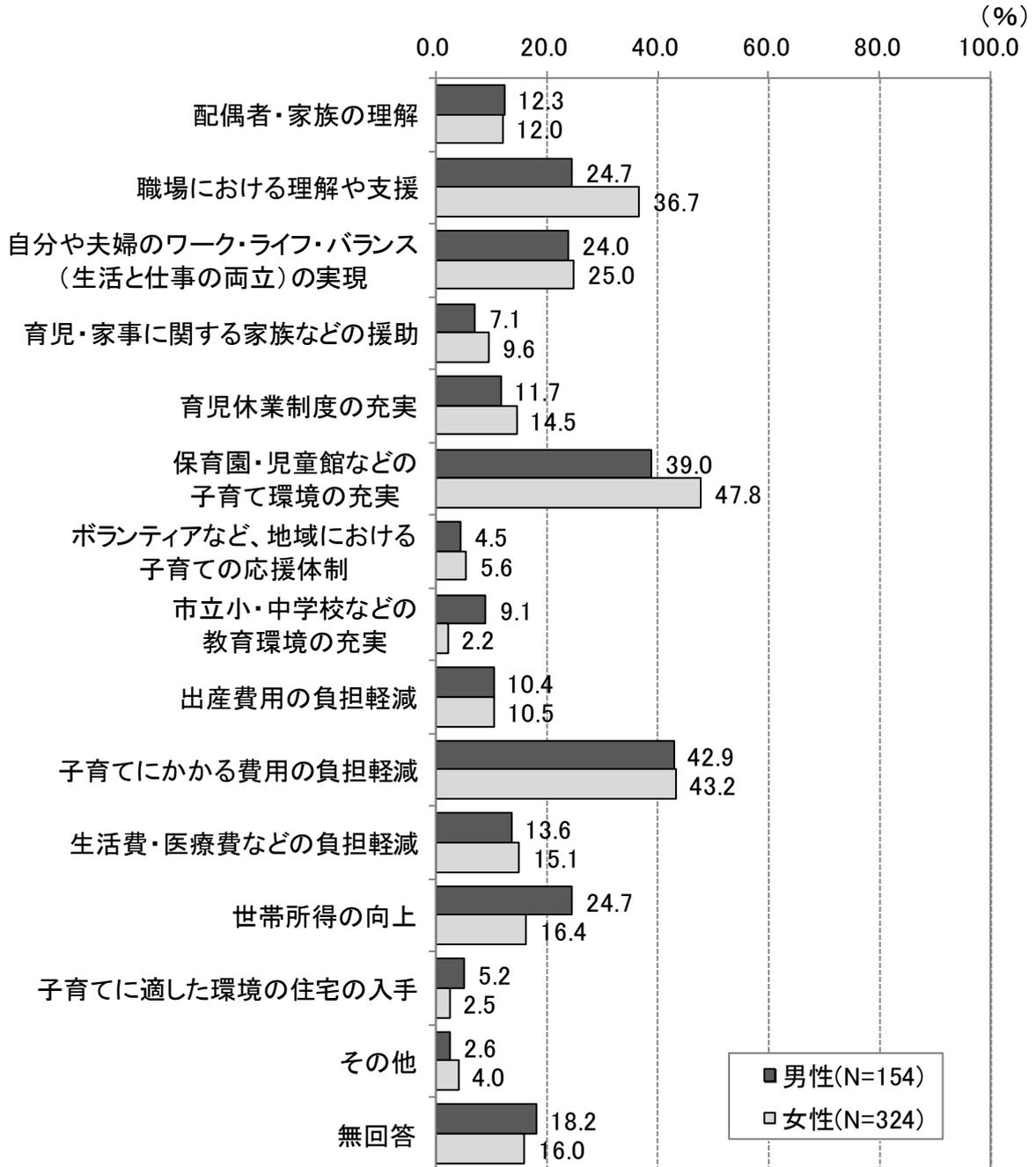
性別で見ると、男性・女性に関わらず「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多いです。身体的な原因以外では、男性の方が女性よりも「家が狭い」「子どもをのびのびと育てられる環境でない」「育児の負担に耐えられない」が多く、一方で女性の方が男性よりも「自分の仕事に差し支えがある」が多いです。



【性別でみた理想的な数の子どもを持たない理由】

問27 少子高齢化が進んでいますが、一般的に、どのような条件がそろえば子どもを産み育てやすくなると思いますか。(〇は3つまで)

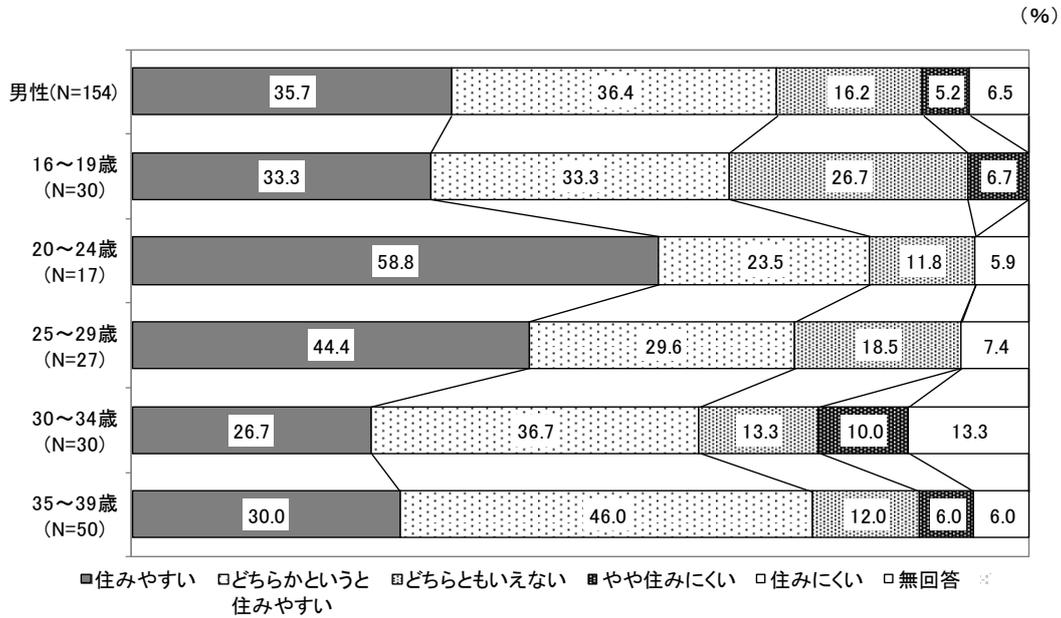
性別でみると、女性の方が男性よりも「職場における理解や支援」「保育園・児童館などの子育て環境の充実」が多いです。



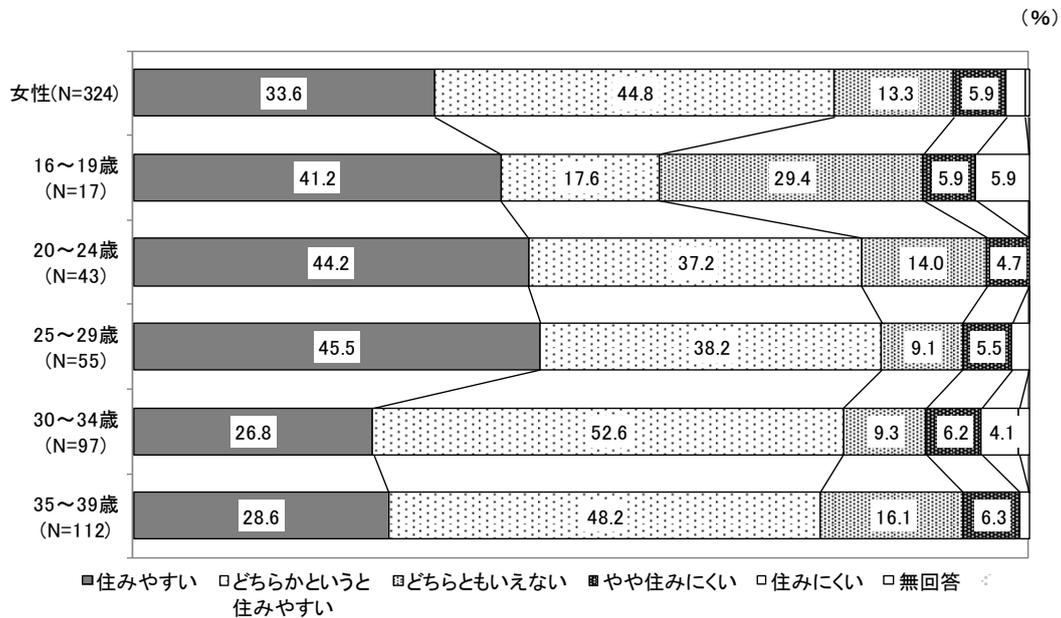
【性別でみた子どもを産み育てやすくなる条件】

問28 小金井市は住みやすいと思いますか。(○は1つだけ)

性別・年代別にみると、男性の20～24歳・35～39歳で「住みやすい」「どちらかという住みやすい」の合計が多く、特に男性20～24歳では「住みやすい」が5割を超えています。一方、女性は16～19歳で「住みやすい」「どちらかという住みやすい」が少なく、30歳代に入ると「住みやすい」が減少することも見て取れます。



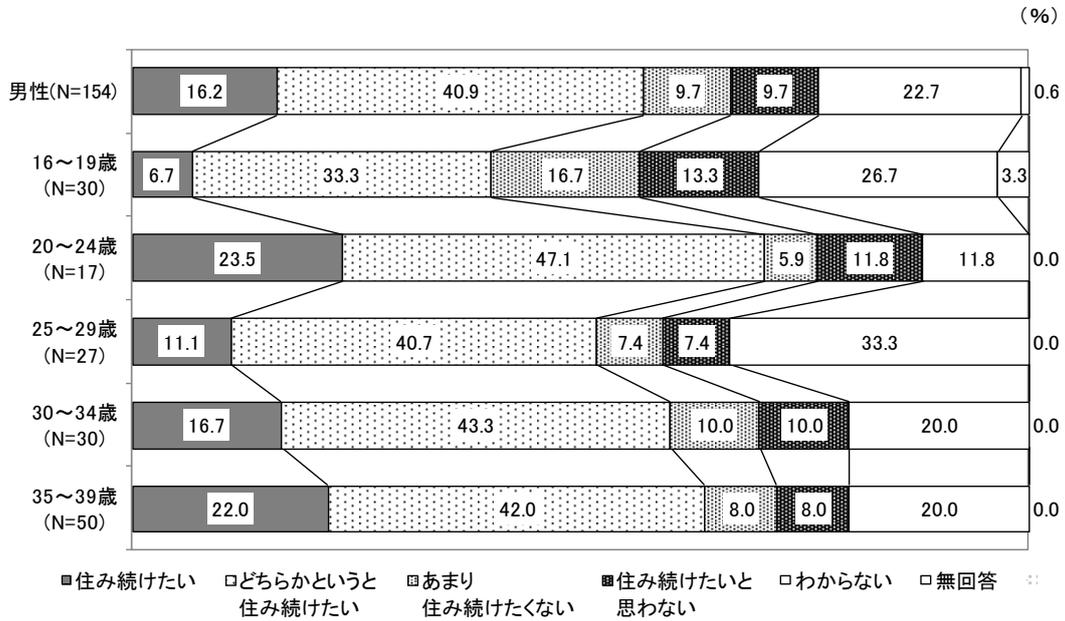
【男性:年代別にみた小金井市の住みやすさ】



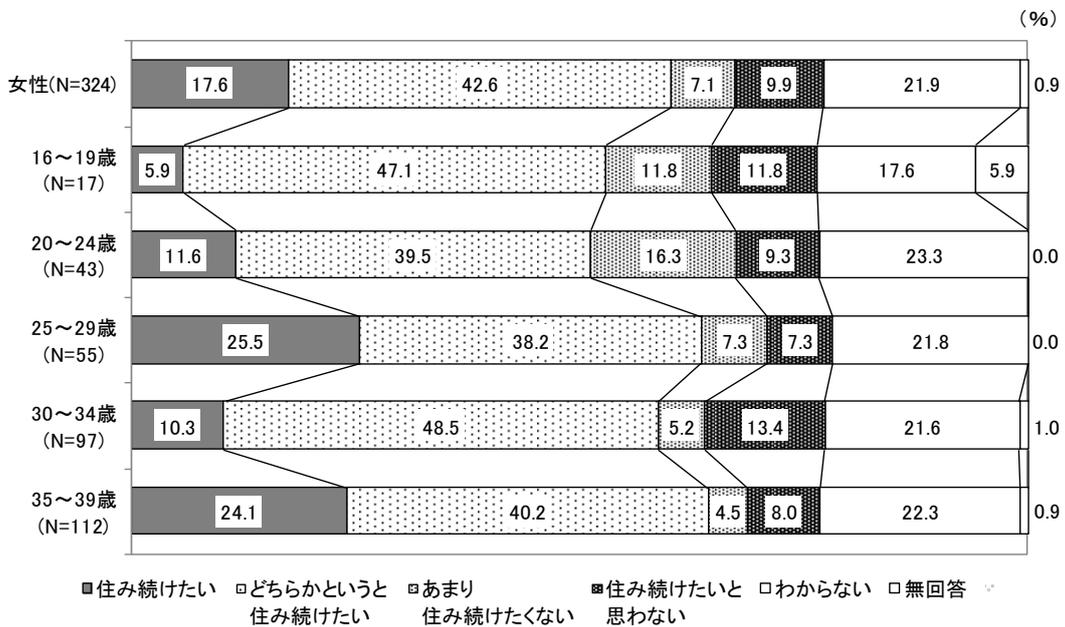
【女性:年代別にみた小金井市の住みやすさ】

問29 将来、小金井市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

性別・年代別にみると、男性では20～24歳で「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」が多く、16～19歳で少ないです。女性についても、年齢が低い方が総じて「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」が少ないです。



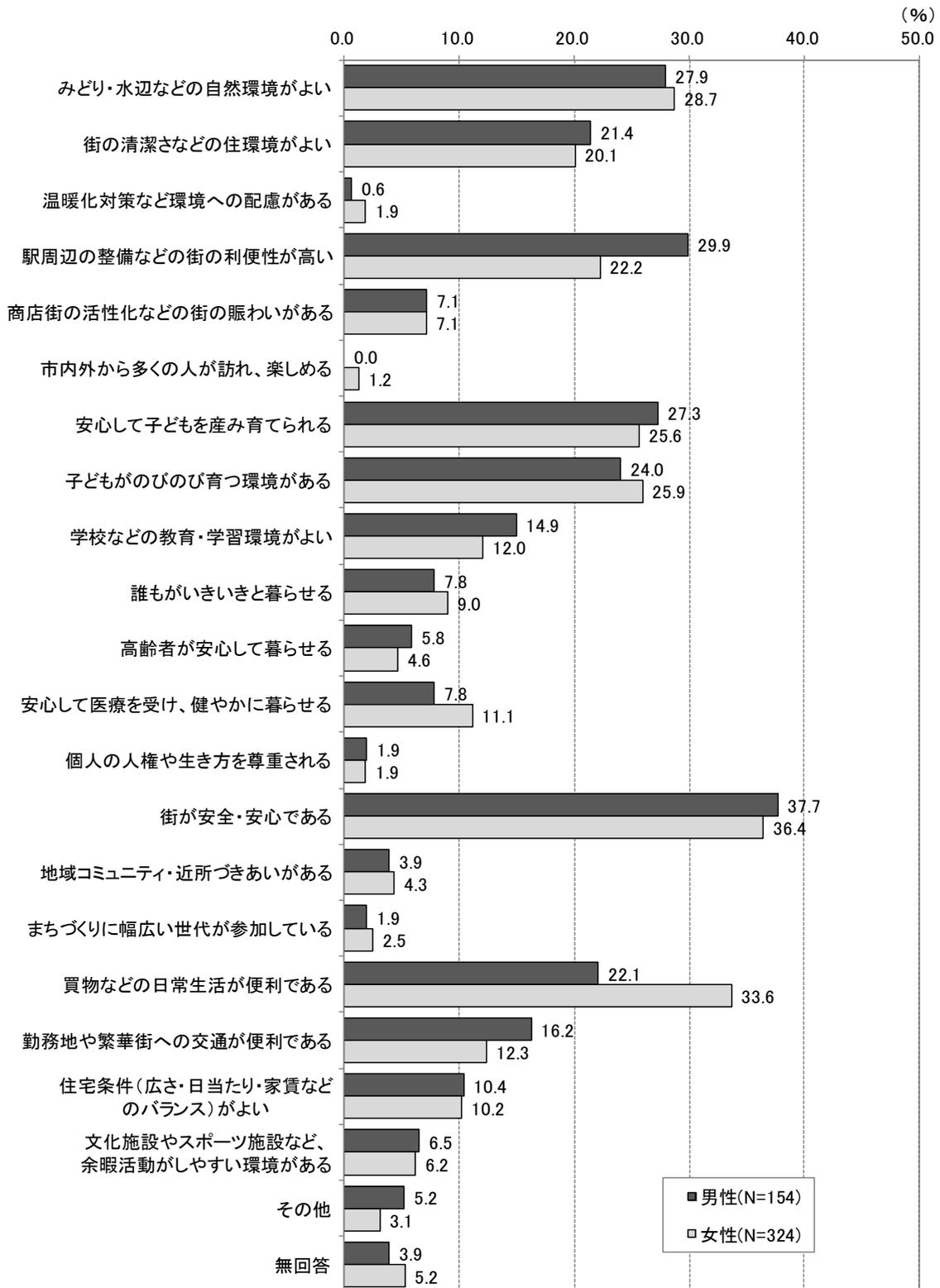
【男性：年代別にみた定住意向】



【女性：年代別にみた定住意向】

問30 「住み続けたいまち」とはどんなまちだとお考えですか。(〇は3つまで)

性別でみると、男性では「駅周辺の整備などの街の利便性が高い」が多く、女性では「買い物などの日常生活が便利である」が選ばれています。

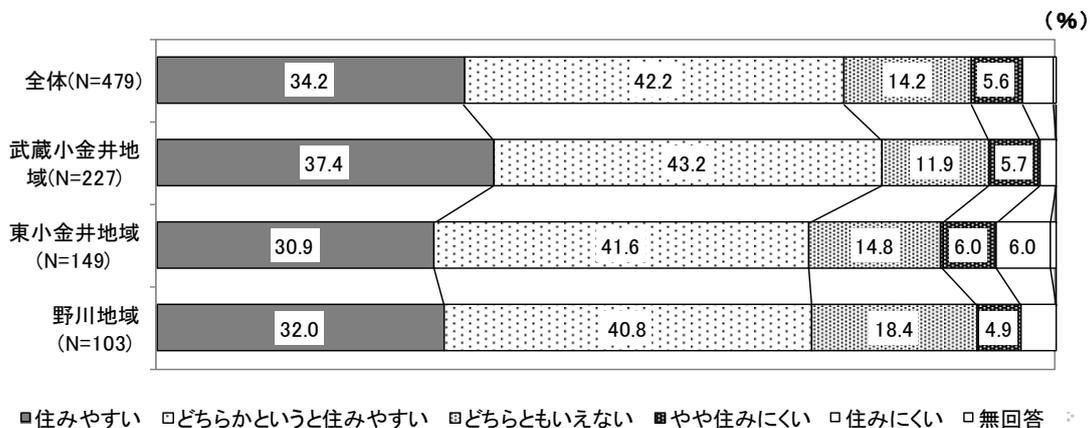


【性別・年代別にみた住み続けたいまちのイメージ】

8. 居住地区による分析

問28 小金井市は住みやすいと思いますか。(○は1つだけ)

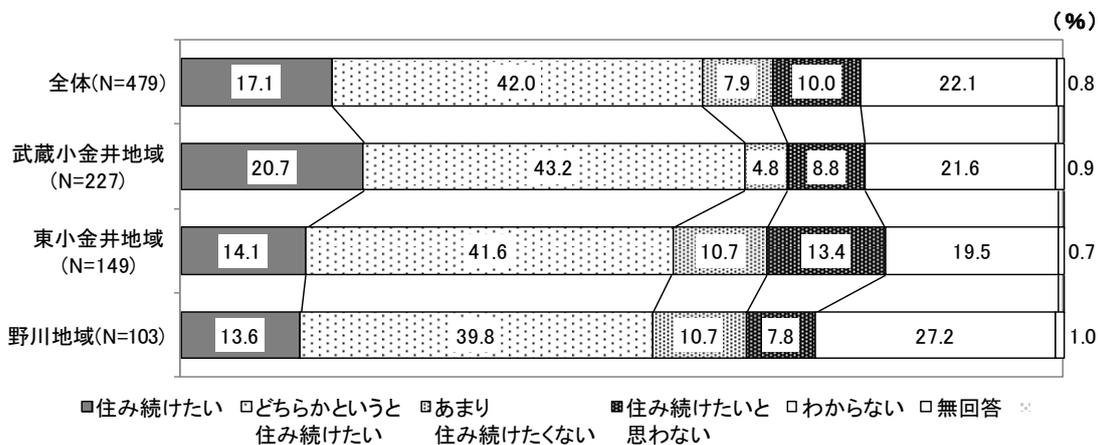
居住地区別にみると、大きな違いはありませんが、比較的、武蔵小金井地域が「住みやすい」「どちらかという住みやすい」が多いです。



【居住地区別にみた小金井市の住みやすさ】

問29 将来、小金井市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

居住地区別にみると、大きな違いはありませんが、比較的、武蔵小金井地域が「住み続けたい」「どちらかという住み続けたい」が多いです。



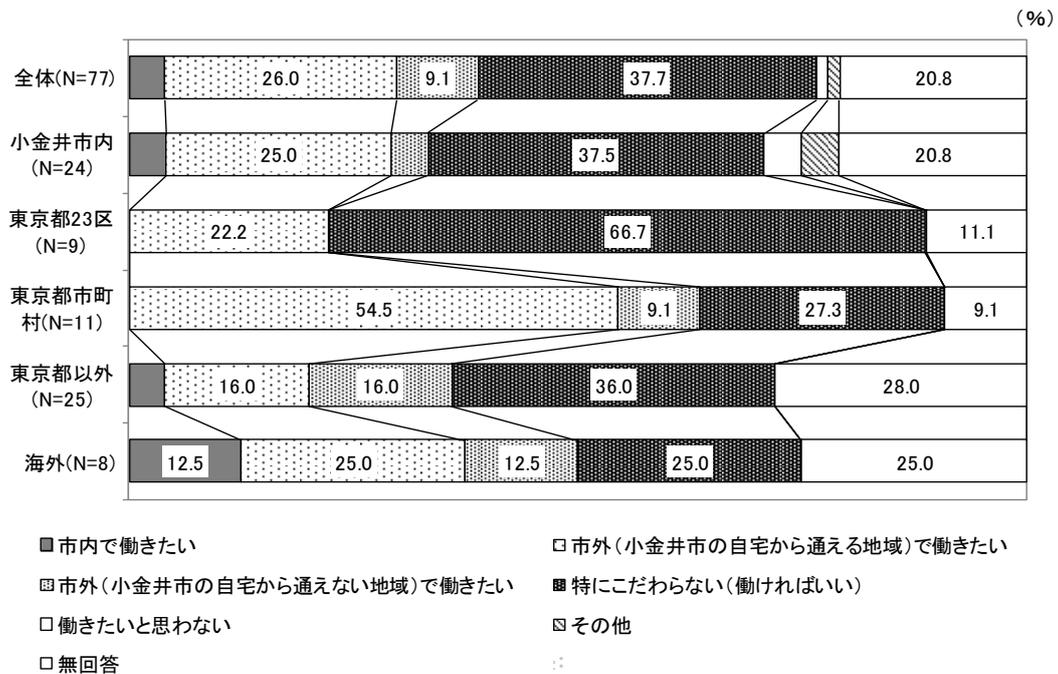
【居住地区別にみた定住意向】

9. 出身地・居住年数による分析

問15 就職先の地域に関して希望はありますか。(○は1つだけ)

出身地別で見ると、東京都23区出身で「特にこだわらない」が多く、東京都市町村出身で「市外(小金井市の自宅から通える地域)で働きたい」が多いです。

小金井市出身については、市内に住みながら働きたい人は全体の約3割、市外に住みたい人は4割弱です。

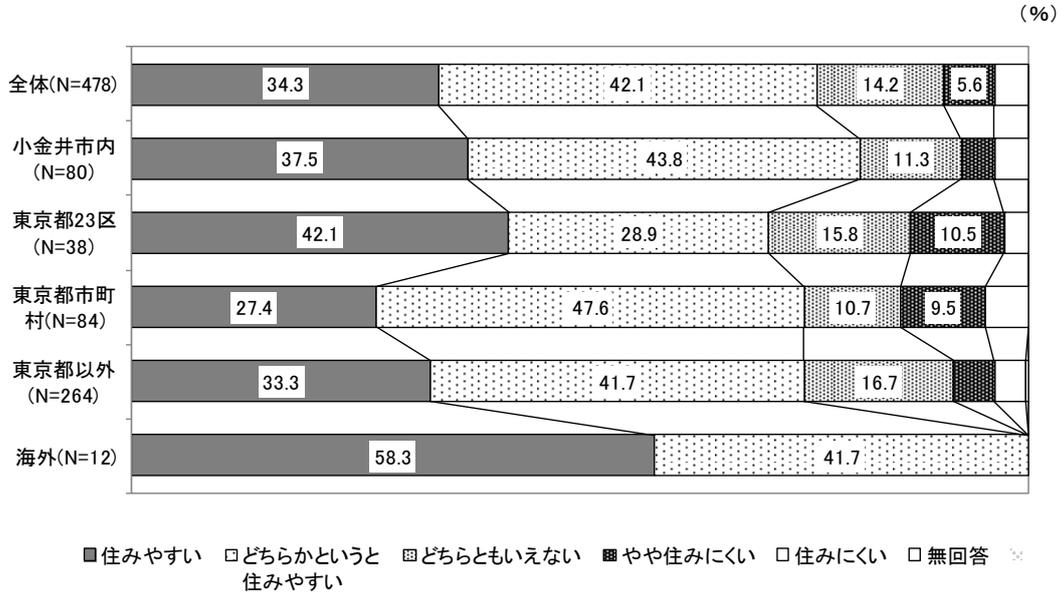


【出身地別にみた就業地・居住地の意向】

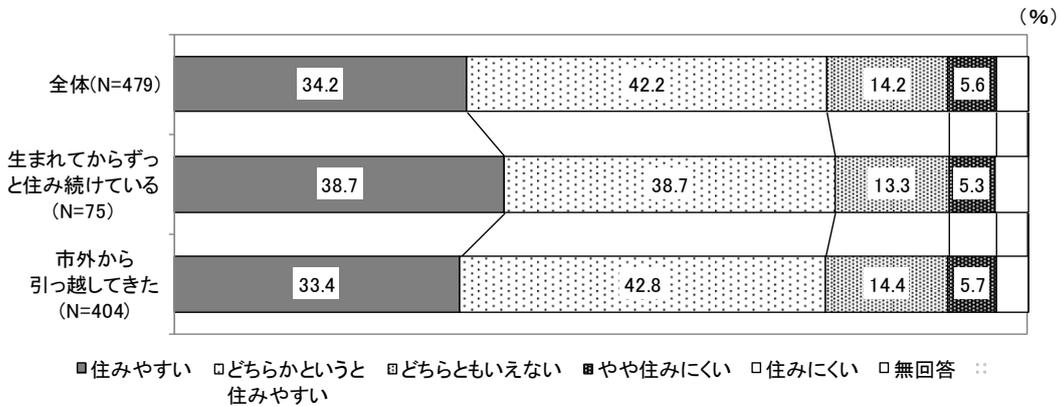
問28 小金井市は住みやすいと思いますか。(〇は1つだけ)

出身地別にみると、海外出身と東京都23区出身にて「住みやすい」が多いです。小金井市出身における「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」の合計は76.4%です。

生まれてからずっと小金井市に住み続けている人は、そうでない人よりも、「住みやすい」がやや多いです。



【出身地別にみた小金井市の住みやすさ】

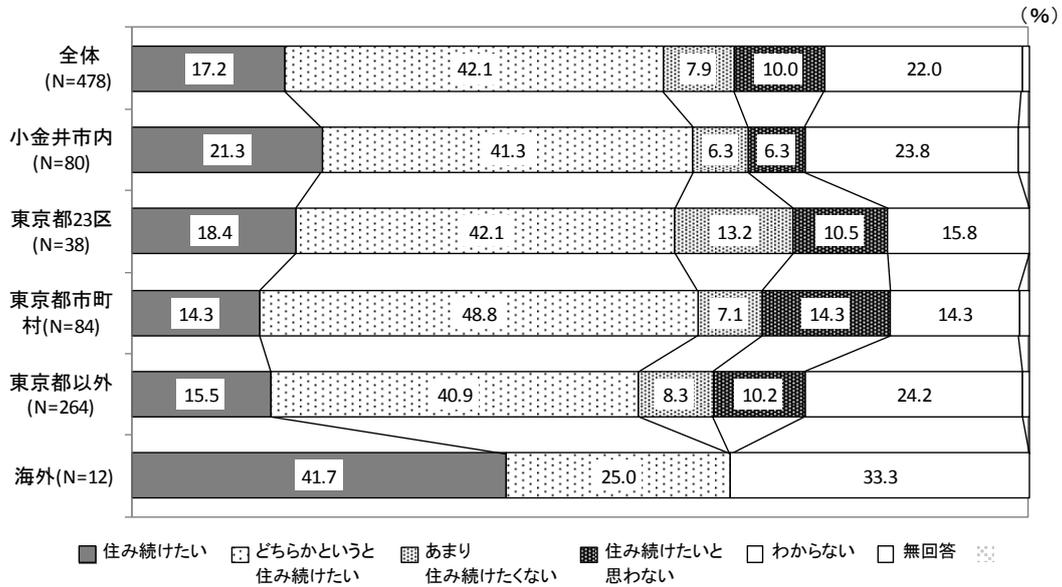


【居住年数でみた小金井市の住みやすさ】

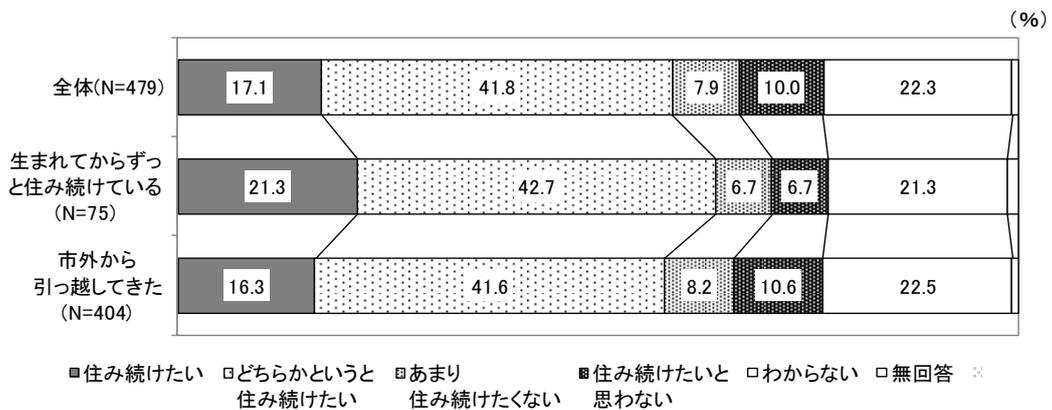
問29 将来、小金井市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

出身地別にみると、海外出身を除き、「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」に大きな違いはありません。

生まれてからずっと小金井市に住み続けている人は、そうでない人よりも「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」が多いです。



【出身地別にみた定住意向】

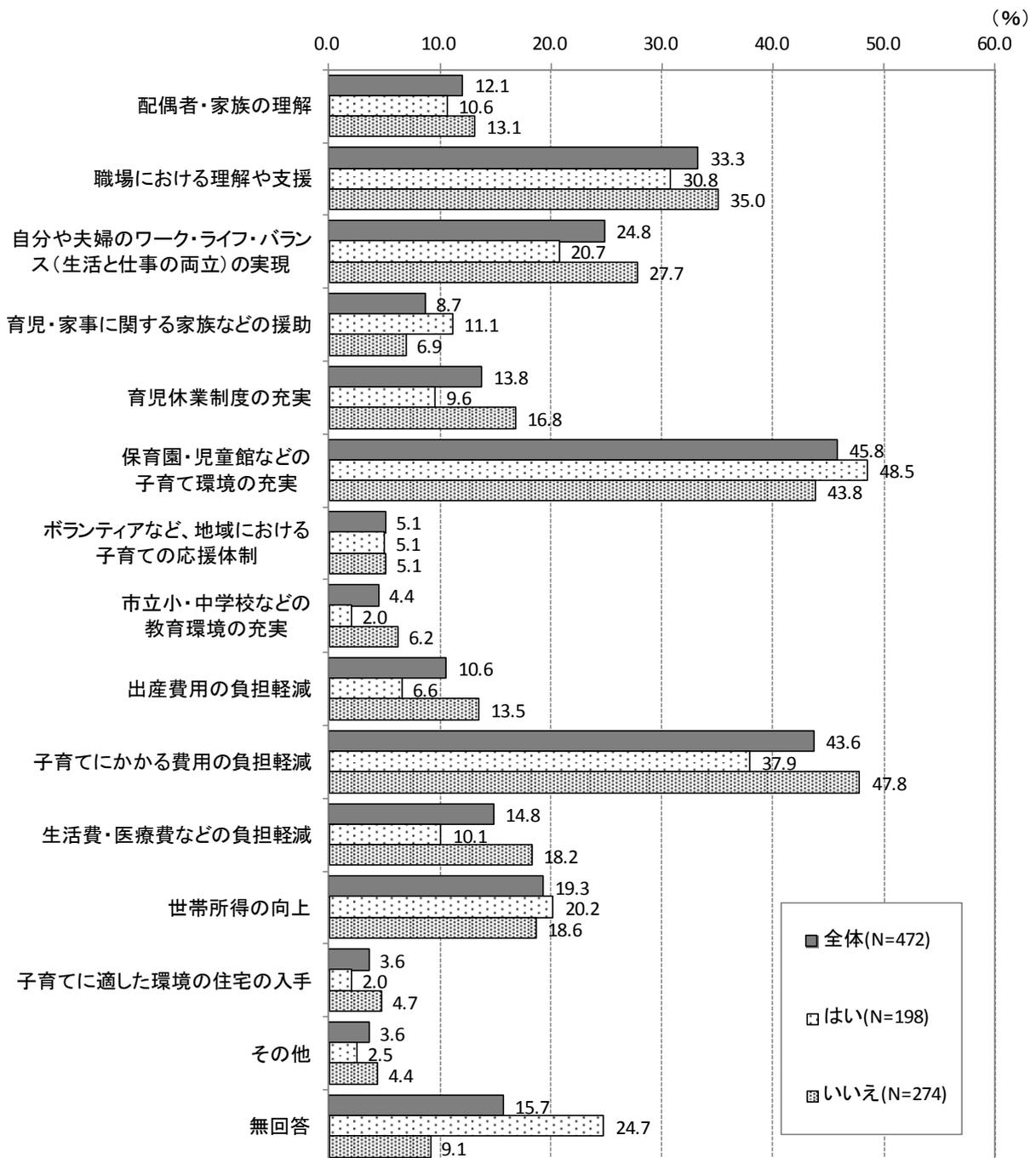


【居住年数でみた定住意向】

10. 子どもの有無による分析

問27 少子高齢化が進んでいますが、一般的に、どのような条件がそろえば子どもを産み育てやすくなると思いますか。(〇は3つまで)

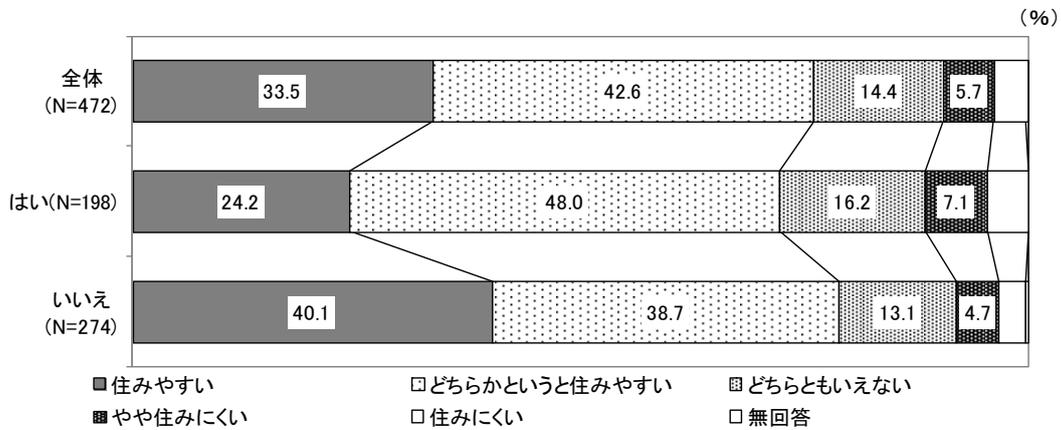
子どもの有無でみると、子どものいる人では「保育園・児童館などの子育て環境の充実」が多いです。一方、子どものいない人は「子育てにかかる費用の負担軽減」「育児休業制度の充実」「自分や夫婦のワーク・ライフ・バランス(生活と仕事の両立)の実現」などが子どものいる人よりも多いです。



【子どもの有無でみた子どもを産み育てやすくなる条件】

問28 小金井市は住みやすいと思いますか。(○は1つだけ)

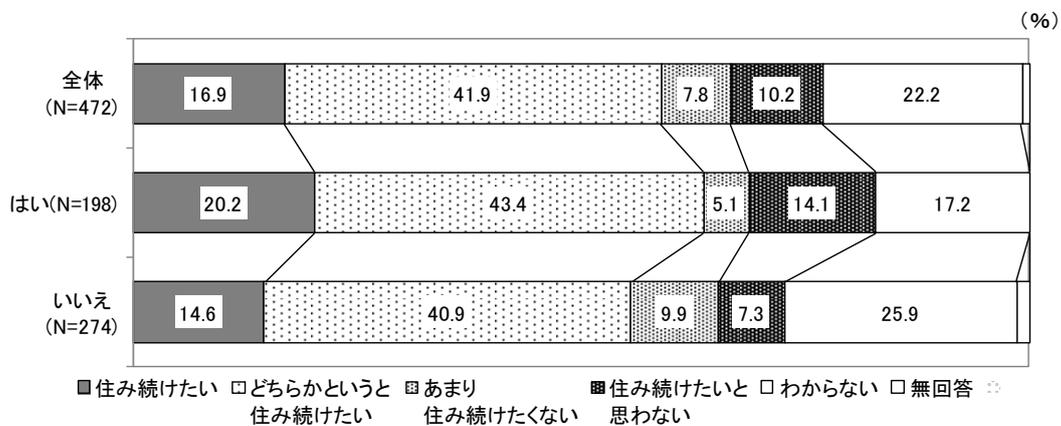
子どもの有無でみると、子どものいない人の方が「住みやすい」が約15%多く、「住みやすい」「どちらかというと住みやすい」の合計も6.6%多いです。



【子どもの有無でみた小金井市の住みやすさ】

問29 将来、小金井市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

子どもの有無でみると、子どものいる人の方が「住み続けたい」が多く、「住み続けたい」「どちらかというと住み続けたい」の合計も多いです。ただし、「住み続けたいと思わない」も6.8%多いです。

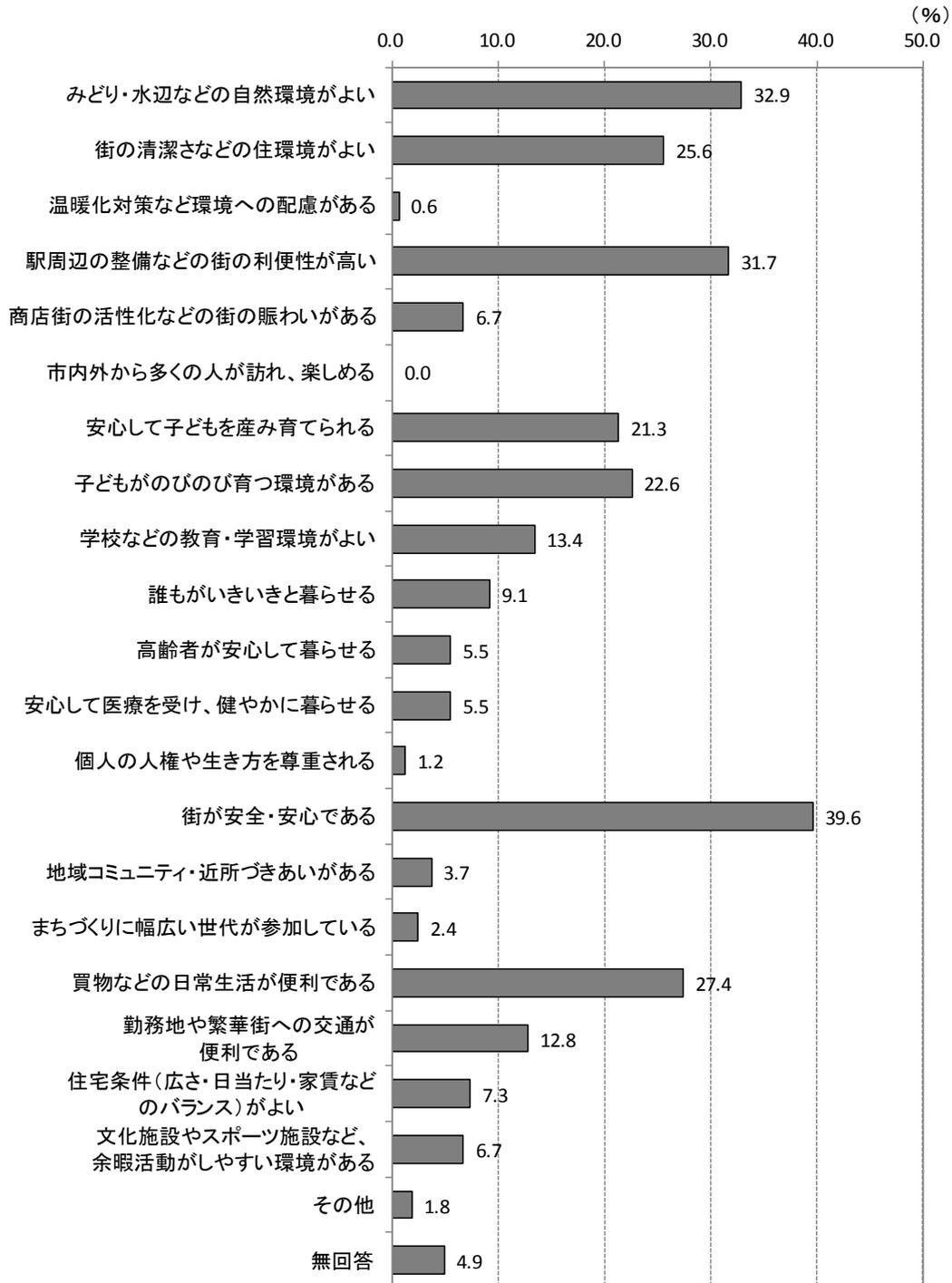


【子どもの有無でみた定住意向】

11. 住みやすさや定住意向による分析

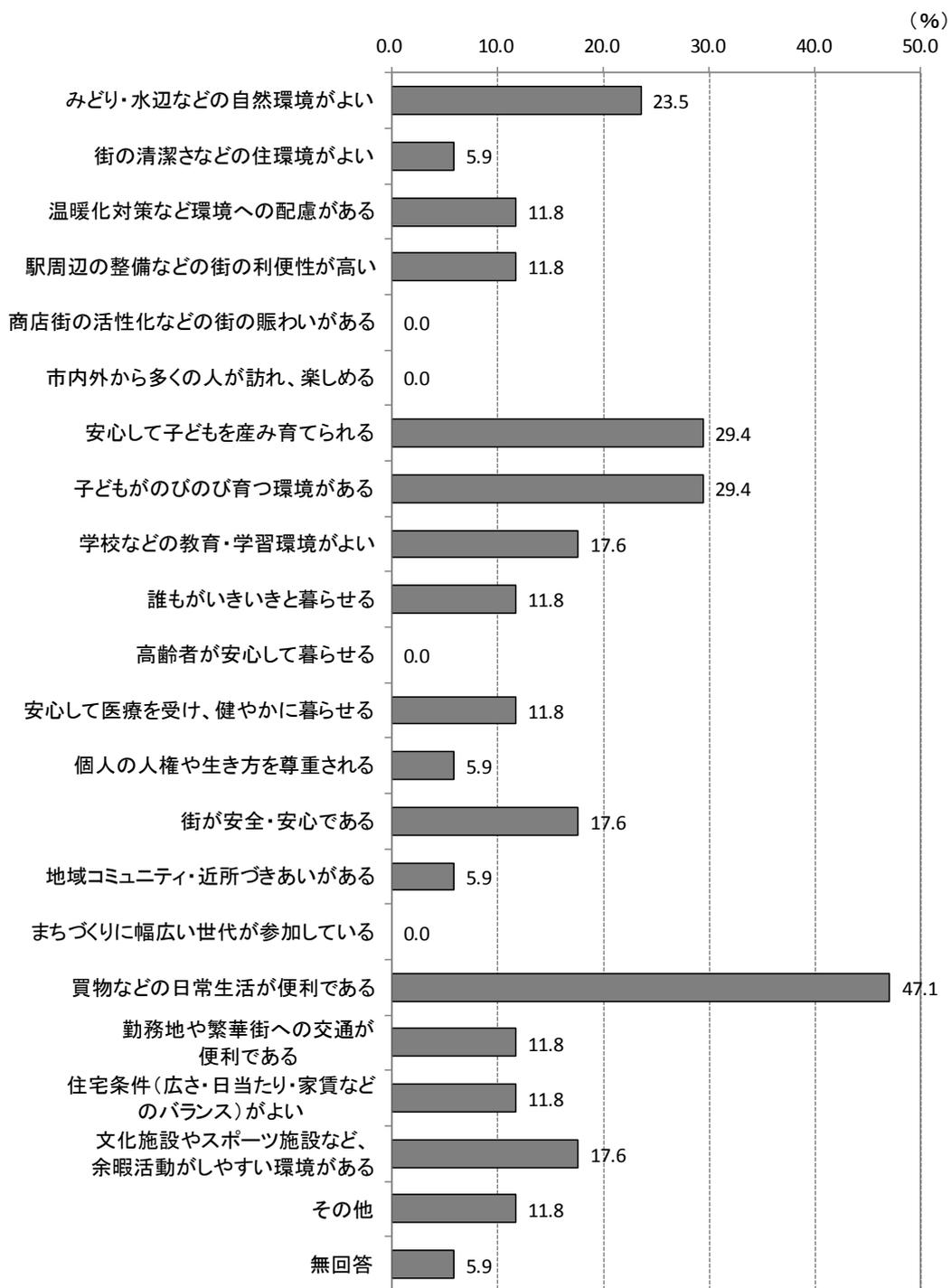
問30 「住み続けたいまち」とはどんなまちだとお考えですか。(〇は3つまで)

住みやすいと感じるかどうかでみると、小金井市を住みやすいと感じている人では「街が安全・安心である」が39.6%で最も多く、次いで「みどり・水辺などの自然環境がよい」が32.9%、「駅周辺の整備などの街の利便性が高い」が31.7%で続きます。



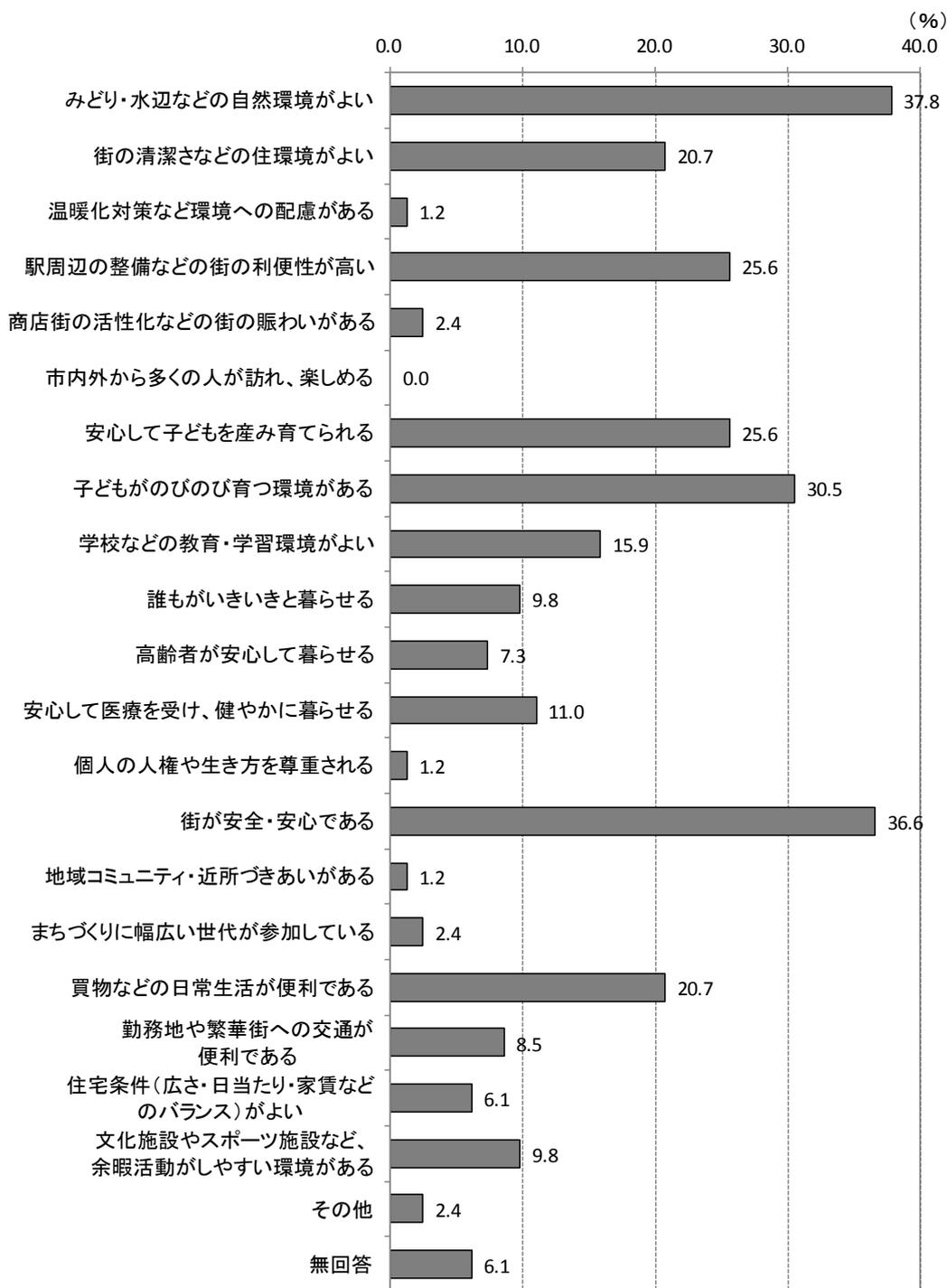
【小金井市を住みやすいと感じる人が思う住みやすいまち】

一方、小金井市を住みにくいと感じている人では、「買い物などの日常生活が便利である」が47.1%で最も多く、次いで「安心して子どもを産み育てられる」「子どもがのびのびと育つ環境がある」がそれぞれ29.4%、「みどり・水辺などの自然環境がよい」が23.5%で続きます。



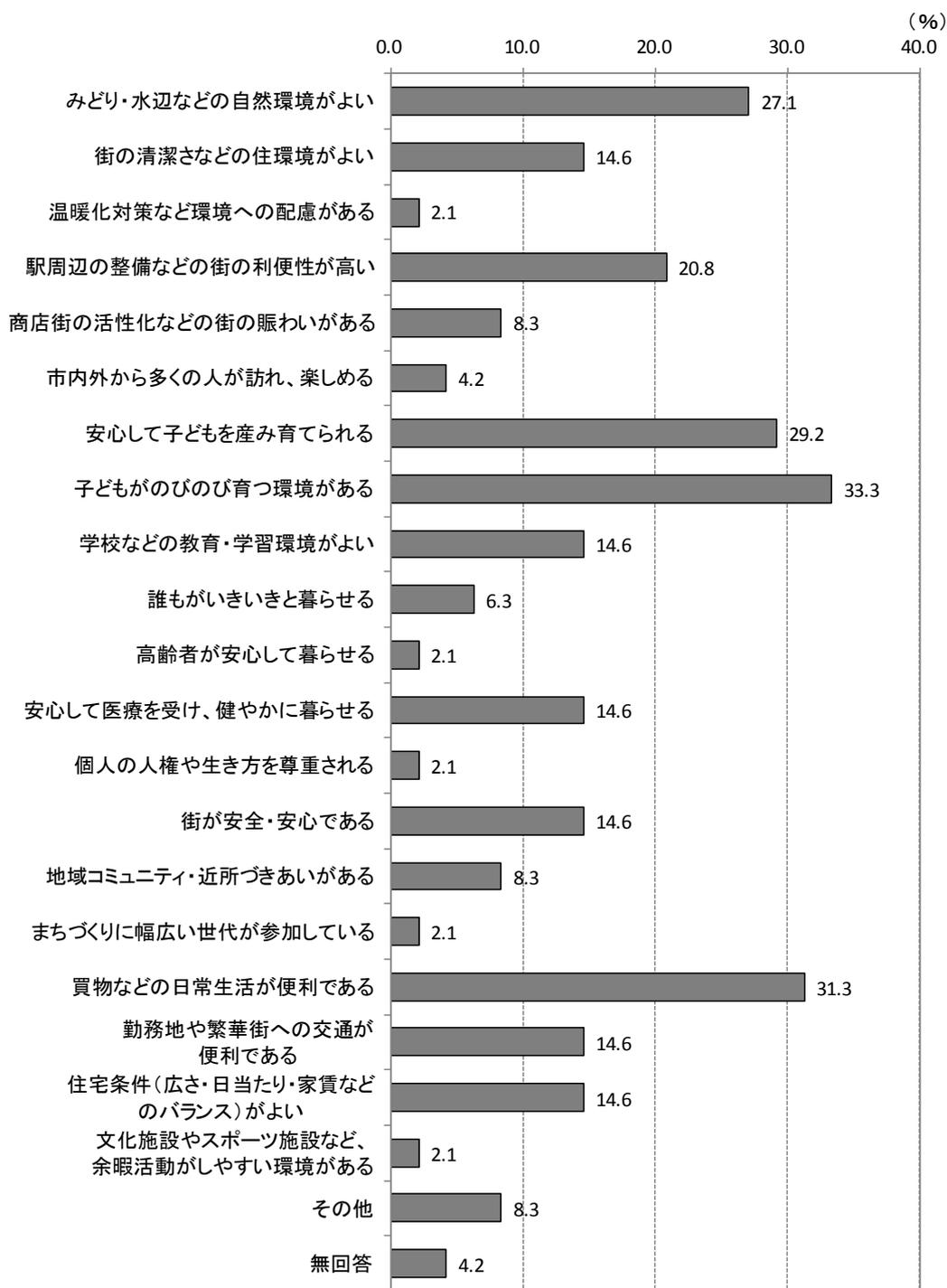
【小金井市を住みにくいと感じる人が思う住みやすいまち】

定住意向でみると、小金井市に住み続けたいと思う人では、「みどり・水辺などの自然環境がよい」が37.8%で最も多く、次いで「街が安全・安心である」が36.6%、「子どもがのびのびと育つ環境がある」が30.5%で続きます。



【小金井市に住み続けたいと思う人が思う住みやすいまち】

小金井市に住み続けたくないと思う人では、「子どもがのびのび育つ環境がある」が33.3%で最も多く、次いで「買い物等の日常生活が便利である」が31.3%、「安心して子どもを産み育てられる」が29.2%で続きます。



【小金井市に住み続けたくないと思う人が思う住みやすいまち】

第3回まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会
第1回・第2回委員会でいただいたご意見

■基本目標1に関するご意見:

(目標) 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち

(ご意見)

- 住み心地のよさは、小金井がこれから伸ばしていく必要のあることだと思う。
- 学生の住みやすいまちということを考えていくとよいと思う。転出したとしても一定期間住み続けてくれるので、学生が4年間住んで出ていくという環境整備も考えられるのではないかな。
- 大学が3つあるので、学生を大切にする文化をつくり、共有すると、入学を機に移り住んだ学生が卒業後も居つくかもしれない。
- 小金井市に住み続けている市民と、学生のように入れ替わりの多い市民に分かれているのが現状だろう。その双方に分けて住みやすさを高める施策を打った方がよいのではないかな。
- 公園が多いことも、非課税の土地が多いことでもあり税金につなげていない。魅力は表裏一体だ。住みやすさを捨ててまで企業誘致や公園の削減を行うのかは、これまで住民の方は望んでいない経過があった。
- 小金井市には散歩ができる場所があるが、ちょっと佇んでいけることができるカフェのような店舗が少ない。保護者が立ち寄ってお茶やランチができるような個性のあるお店が広がっていくといい。そういうところがあれば、市外から訪れた方にもお金を落としていただけるのではないかな。

■基本目標2に関するご意見:

(目標) 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち

(ご意見)

- 街道沿いで宅地開発が進んでいて転入者が増えているようだが、それが出生率にも影響していると思う。子育て支援を大事にしていくべきだと思う。
- 子育て世代が引っ越してきやすい環境づくりや子育て環境の充実は、出生率の増加・維持に大切なことだと思うので、重視してもらいたい。
- 子育て世帯と独り暮らしの高齢者がルームシェアなどをして、子どもの面倒をみたり、高齢者の生活を支えたりすることは双方にメリットがあるのではないかな。大家族のように過ごせる家があるとよいかもしれない。

■基本目標3に関するご意見:

(目標) 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち

(ご意見)

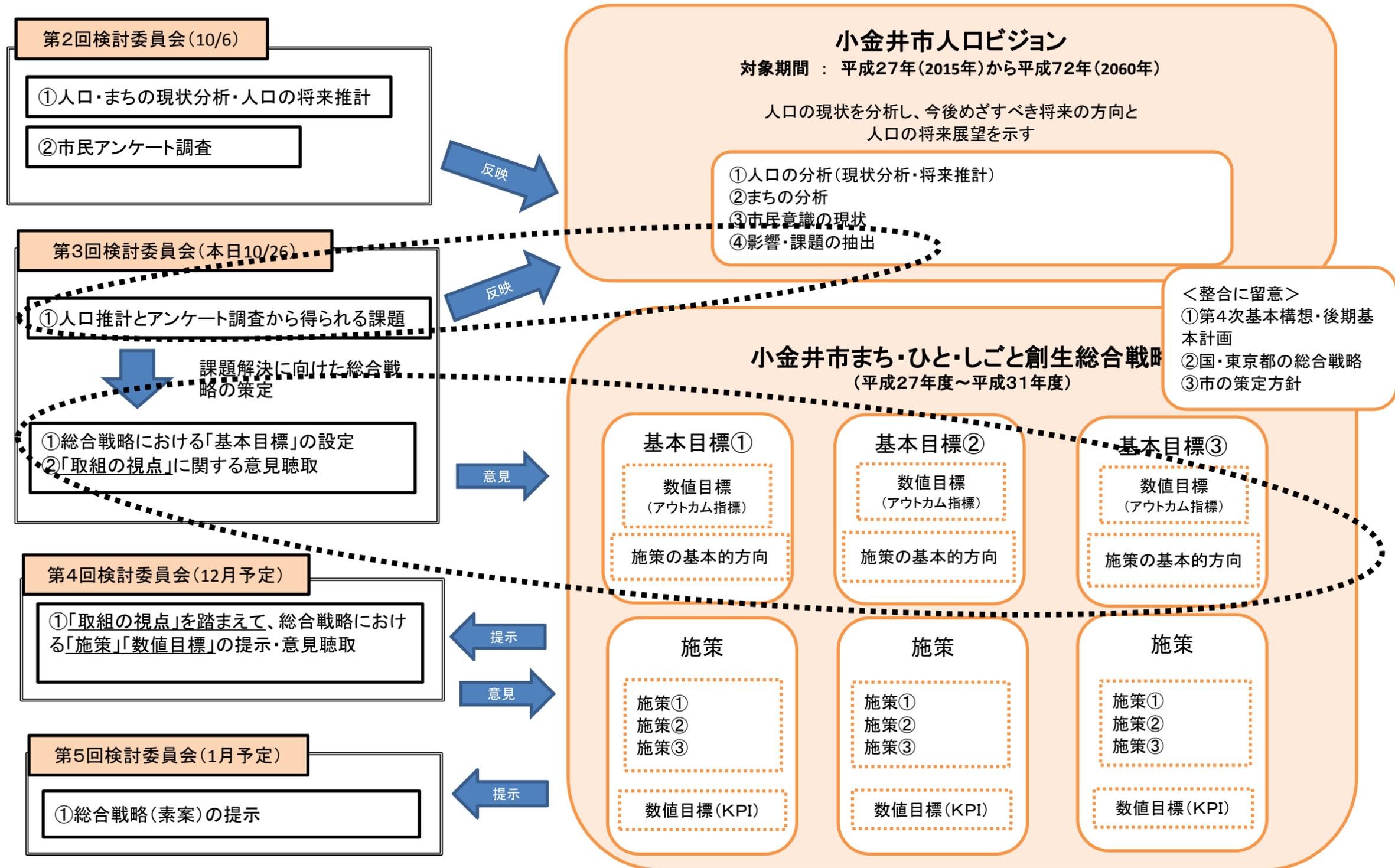
- 独居老人問題は取り組む必要があると思う。

- 老年人口は65歳以上だが、70歳ぐらいまでは現役とはいわないまでも元気なので、オールパワーにがんばってもらわないといけない。
- いまの65歳以上は元気で、知識や経験、気力・活力もあるので、活躍のための場をコミュニティで演出することも大切だろう。元気な高齢者が増えると、まちも活気づくだろう。
- 人口が減少すると空き家問題は避けられないのではないか。
- 人口が減ると人が住まない空間ができるので、自然として活用してはどうか。
- 人口減少は空き家の増加につながるが、新たに建てる一軒家は広くするよう誘導する、ないしは自然を残すようにして、観光に役立てるようにすることは考えられる。

■その他

- 5年前の国勢調査に基づいて施策を考えても、現状と異なるためPDCAサイクルを回すことができないのではないか。また、施策の結果についても、もうすこし短いサイクルで結果をみて、次の手を考えていってはどうか。

総合戦略(素案)に係る施策等の検討の流れについて



※ 第5回検討委員会のおと、パブリックコメント・市民説明会を実施する予定

(参考)総合戦略イメージ

基本目標

基本目標①
 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち

施策の基本的方向

【現状と課題】
 ○転入超過に支えられた社会増の影響が大きい
 ○長期的には15～24歳の転入数は減少していく
 【基本的方向】
 ○ライフステージを経たあとにおいても継続して住み続けたいと思える環境が必要
 ○若年層の転入維持・転出抑制

数値目標

	数値目標	目標値
1	転入者数	○人⇒○人
2	○○と感じる市民の割合	○%⇒○%

アウトカム指標
 ○○をした結果として、生まれる効果のようなものを設定

施策

①シティプロモーションの推進

○「取組の視点」を考慮し設定
 ○「取組の視点」に関する取組を設定

	取組	内容	長期計画等での位置づけ
1	観光大使の活用		既存事業
2	○○の充実		拡充事業
3	○○の推進		新規事業

②魅力的な市街地の整備

	取組	内容	長期計画等での位置づけ
1	武蔵小金井南口再開発の推進		既存事業
2	○○の充実		拡充事業
3	○○の整備		新規事業

数値目標 (KPI)

	KPI	目標値
1	イベントの参加者数	○人⇒○人
2		
3		
4		
5		

原則として、アウトカム指標
 ○○をした結果として、生まれる効果のようなものを設定